

有価証券報告書

事業年度 自 2018年2月1日
(第105期) 至 2019年1月31日

スバル興業株式会社

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第105期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	8
第2 【事業の状況】	9
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	9
2 【事業等のリスク】	12
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	12
4 【経営上の重要な契約等】	16
5 【研究開発活動】	16
第3 【設備の状況】	17
1 【設備投資等の概要】	17
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	19
第4 【提出会社の状況】	20
1 【株式等の状況】	20
2 【自己株式の取得等の状況】	23
3 【配当政策】	24
4 【株価の推移】	24
5 【役員の状況】	25
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	32
第5 【経理の状況】	38
1 【連結財務諸表等】	39
2 【財務諸表等】	73
第6 【提出会社の株式事務の概要】	85
第7 【提出会社の参考情報】	86
1 【提出会社の親会社等の情報】	86
2 【その他の参考情報】	86
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	87

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年5月7日

【事業年度】 第105期(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

【会社名】 スバル興業株式会社

【英訳名】 Subaru Enterprise Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永 田 泉 治

【本店の所在の場所】 東京都千代田区有楽町一丁目10番1号

【電話番号】 東京(03)3213—2861

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 松 丸 光 成

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区有楽町一丁目10番1号

【電話番号】 東京(03)3213—2861

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 松 丸 光 成

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	2015年1月	2016年1月	2017年1月	2018年1月	2019年1月
売上高 (千円)	20,073,050	20,279,369	20,255,625	23,339,446	25,164,357
経常利益 (千円)	1,813,681	1,892,883	2,201,030	3,187,037	2,883,371
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,056,146	1,229,724	1,462,906	2,094,475	1,820,150
包括利益 (千円)	1,051,376	1,251,906	1,487,512	2,130,452	1,842,937
純資産額 (千円)	17,296,160	18,250,277	19,314,360	21,097,717	22,234,726
総資産額 (千円)	20,870,992	21,889,112	22,535,809	25,754,977	26,830,623
1株当たり純資産額 (円)	646.19	683.77	7,332.32	8,018.38	8,615.72
1株当たり当期純利益 (円)	40.40	47.13	564.07	814.18	707.92
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	80.9	81.4	83.7	80.1	82.5
自己資本利益率 (%)	6.4	7.1	8.0	10.6	8.5
株価収益率 (倍)	10.97	8.91	9.34	8.77	7.59
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,731,287	1,043,886	1,692,543	2,879,430	2,174,397
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△962,343	△562,731	△1,089,377	△1,266,592	△940,442
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△211,030	△274,998	△423,038	△349,747	△708,897
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	5,228,898	5,435,054	5,615,182	6,878,272	7,402,749
従業員数 (名)	417	427	411	543	555
(外、平均臨時雇用者数)	(389)	(394)	(442)	(419)	(355)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 第104期に株式会社アイ・エス・エスグループ本社の全株式を取得したことに伴い、道路関連事業において従業員数が119名増加しております。

4 2017年8月1日付で、普通株式10株を1株に株式併合しております。第103期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	2015年1月	2016年1月	2017年1月	2018年1月	2019年1月
売上高 (千円)	13,727,976	14,102,811	13,940,034	15,907,314	16,173,356
経常利益 (千円)	1,408,943	1,500,107	1,557,910	2,441,529	2,228,588
当期純利益 (千円)	842,400	1,043,984	1,084,573	1,674,719	1,509,681
資本金 (千円)	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000	1,331,000
発行済株式総数 (株)	26,620,000	26,620,000	26,620,000	2,662,000	2,662,000
純資産額 (千円)	14,601,079	15,349,322	16,017,392	17,350,085	18,351,550
総資産額 (千円)	17,194,935	17,970,150	18,354,274	20,465,576	21,402,163
1株当たり純資産額 (円)	558.56	588.94	6,224.82	6,746.96	7,138.78
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額)	10.00 (3.75)	11.00 (3.75)	13.00 (3.75)	146.25 (3.75)	190.00 (50.00)
1株当たり当期純利益 (円)	32.22	40.01	418.19	651.01	587.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.9	85.4	87.3	84.8	85.7
自己資本利益率 (%)	5.9	7.0	6.9	10.0	8.5
株価収益率 (倍)	13.75	10.50	12.60	10.97	9.15
配当性向 (%)	31.0	27.5	31.1	27.6	32.4
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	197 (10)	205 (8)	199 (23)	203 (22)	219 (18)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第102期の1株当たり配当額11円には、特別配当2円50銭及び創立70周年記念配当1円が含まれております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

4 2017年8月1日付で、普通株式10株を1株に株式併合しております。第103期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

5 第104期の1株当たり配当146.25円は、中間配当額3.75円と期末配当額142.50円の合計となります。2017年8月1日付で、普通株式10株を1株に株式併合しておりますので、中間配当額3.75円は株式併合前の配当額(株式併合を考慮した場合の中間配当額は37.50円)、期末配当額142.50円は株式併合後の配当額となります。(株式併合を考慮した場合の1株当たり年間配当額は180円となります。)

2 【沿革】

大衆娯楽と文化の向上を図るため、映画その他の興行、娯楽機関の経営を目的として1946年2月資本金18万円をもって東京都麹町区内幸町二丁目1番地にスバル興業株式会社を設立。

- 1946年9月 東京都千代田区有楽町に洋画特選劇場として丸の内名画座開館(1966年10月閉館)。
- 1946年12月 洋画封切劇場として丸の内オリオン座(1956年9月閉館)及び本邦初の洋画ロードショー劇場として丸の内スバル座(1953年9月閉館)を順次開館して会社の基礎を固める。
- 1946年11月 本店を東京都中央区銀座六丁目4番地に移転。
- 1948年2月 大阪市北区堂島北町41番地に大阪支社開設。
- 1949年5月 東京証券取引所に上場(1963年10月市場第二部へ移行)。
- 1950年2月 本店を東京都千代田区有楽町一丁目3番地に移転。
- 1950年7月 喫茶、物販事業へ進出。
- 1956年12月 東京都武蔵野市吉祥寺に洋画封切劇場として吉祥寺スバル座(1973年12月閉館)を開館(現:吉祥寺スバルビル・1978年6月竣工(5,004.08㎡))。
- 1960年8月 大阪支社を大阪市福島区上福島北二丁目42番地に移転。
- 1961年4月 外食事業へ進出。
- 1963年12月 首都高速道路公団回数通行券販売受託業務の取扱を開始。(2005年1月:回数通行券の販売終了に伴い業務終了)
- 1964年6月 (旧)株式会社東京ハイウェイを設立し、道路の清掃及びメンテナンス事業に進出。
- 1966年4月 東京都千代田区有楽町に洋画ロードショー劇場有楽町スバル座を開館。
- 1968年9月 ボウリング部門に進出するため盛岡スバルボウル(1976年7月閉鎖し駐車場に転用、現:盛岡駅前立体駐車場・2005年12月竣工)、大阪スバルボウル(1973年2月閉鎖)、東住吉スバルボウル(1973年11月閉鎖)及び柏スバルボウル(1973年12月閉鎖)を順次開設。
- 1968年11月 本店を東京都千代田区有楽町一丁目10番1号(現在地)に移転。
- 1970年5月 阪神高速道路公団回数通行券販売受託業務の取扱を開始。(2005年1月:回数通行券の販売終了に伴い業務終了)
- 1974年8月 (旧)株式会社東京ハイウェイを合併。
- 1974年8月 大阪支社を関西支社に名称変更。大阪市北区末広町3番21号(現在地)に移転。
- 1975年12月 東名高速道路の維持管理を主たる業務とする(現)株式会社東京ハイウェイを設立。
- 1980年4月 東京都中央区銀座に賃貸ビル銀座スバルビル(259.71㎡)竣工。(2019年3月売却)
- 1985年7月 東京証券取引所の市場第一部に指定。
- 2005年6月 高速道路の維持管理を主たる業務とするハイウェイ開発株式会社の全株式を取得し、連結子会社化。
- 2008年4月 東京都江東区の東京夢の島マリーナ、千葉県浦安市の浦安マリーナの運営業務を開始。
- 2009年7月 東京都江東区新木場に賃貸用倉庫建物(7,438.16㎡)竣工。
- 2012年4月 太陽光発電事業を開始。(現在、兵庫県姫路市内に3発電所が稼働中)
- 2017年8月 橋梁・土木構造物等の設計業務を主力事業とする株式会社アイ・エス・エスグループ本社の全株式を取得し、同社およびその子会社である株式会社アイ・エス・エスおよび株式会社アイ・エス・エス・アールズを連結子会社化。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社16社で構成され、道路関連事業、レジャー事業および不動産事業に携わっております。

それぞれの事業内容と当社グループの事業に係わる位置づけおよびセグメント情報との関連は次のとおりであり、記載区分はセグメント情報と同一の区分であります。

(道路関連事業)

当社は、道路および道路附属設備の維持・清掃、補修工事の請負等を官公庁等より受注して作業を行うほか、その一部を子会社(株)名古屋道路サービス、(株)関西トーハイ事業、(株)トーハイクリーン、(株)環境清美、京阪道路サービス(株)、(株)協立道路サービス、(株)北日本ハイウェイ、(株)アイ・エス・エスに作業委託しております。また、(株)名古屋道路サービス、(株)トーハイクリーン、(株)環境清美、京阪道路サービス(株)、(株)協立道路サービス、(株)アイ・エス・エス、(株)アイ・エス・エス・アールズは自らも受注活動を行っており、業務内容によりその作業の一部を当社が請け負うことがあります。

子会社(株)東京ハイウェイ、ハイウェイ開発(株)は受注した業務を自ら施工しておりますが、その一部を当社が請け負うことがあります。子会社スバルケミコ(株)からは、環境関連工事に使用する汚濁水凝集剤を仕入れております。

当社は、太陽光発電事業を行っております。

(レジャー事業)

親会社東宝(株)からは上映作品の配給を受けることがあります。また、パンフレット等劇場売店商品の仕入の取引があります。

当社は、有楽町スバル座内にて売店を経営するほか、銘水等の物品販売業務を行っております。また、(株)東京ハイウェイおよびハイウェイ開発(株)に売店商品の販売を行っております。子会社スバルラインサポート(株)は当社の経営する喫茶店等の運営管理を行っております。

当社は、東京夢の島マリーナおよび浦安マリーナの管理運営を行っております。

(不動産事業)

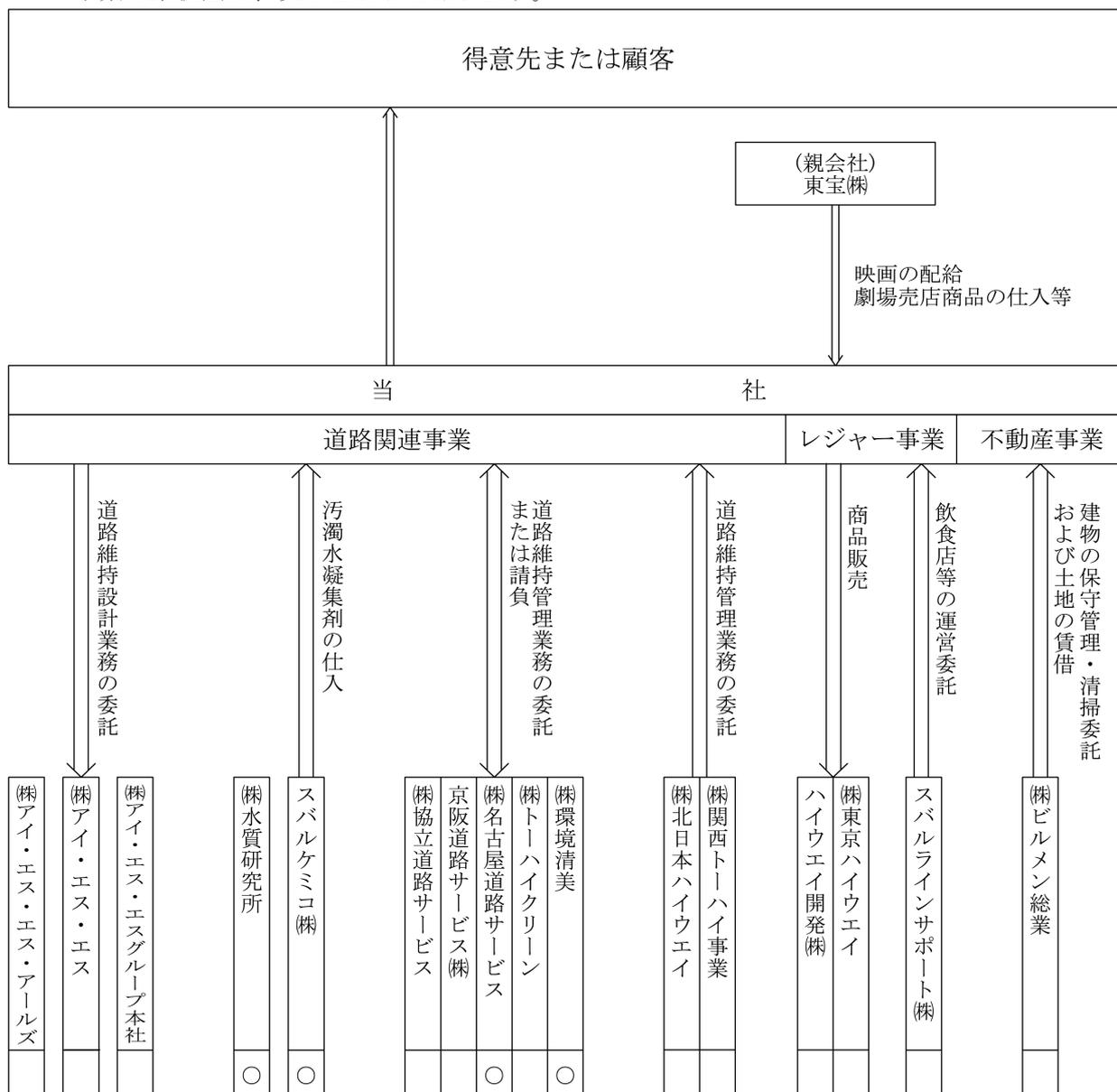
当社は、吉祥寺スバルビルその他の所有不動産の賃貸を行っております。

子会社(株)ビルメン総業は、主として当社所有賃貸ビルの保守管理および清掃業務を行っております。

当社が盛岡において営む駐車場は、当社所有の土地および子会社(株)ビルメン総業より賃借する土地を利用して行っております。

なお、子会社(株)水質研究所、(株)アイ・エス・エスグループ本社および(株)アイ・エス・エス・アールズとの営業取引はありません。

事業の系統図は、次のとおりであります。



(ポンプ場施設の維持管理)

○ 非連結子会社
無印は連結子会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合		関係内容			
				所有 割合(%)	被所有 割合(%)	営業上 の取引	当社役員 の兼任(名)	資金援助	設備の 賃貸借
(親会社) 東宝(株) (注) 2, 3	東京都 千代田区	10,355	映画の製作・配 給・興行、演劇 の製作・興行、 不動産の賃貸他	—	53.55 (1.14)	映画の配給 商品の仕入	2	あり	—
(連結子会社) (株)ビルメン総業	東京都 武蔵野市	40	不動産事業	100.00	—	当社の 業務委託	4	—	土地の 賃貸
スバルラインサポート (株)	東京都 千代田区	10	レジャー事業	100.00	—	当社の 業務委託	3	—	—
(株)トーハイクリーン	東京都 中央区	10	道路関連事業	100.00	—	当社の業 務委託・ 同社の 業務請負	5	—	—
(株)東京ハイウェイ (注) 4	東京都 千代田区	86	道路関連事業	100.00	—	当社の商 品販売・ 同社の 業務指導	5	—	—
京阪道路サービス(株)	大阪府大阪市 北区	10	道路関連事業	100.00	—	当社の業 務委託・ 同社の 業務請負	3	—	—
(株)関西トーハイ事業	同上	10	道路関連事業	100.00	—	当社の 業務委託	4	—	—
(株)協立道路サービス	兵庫県神戸市 東灘区	40	道路関連事業	100.00	—	当社の業 務委託・ 同社の 業務請負	0	—	—
ハイウェイ開発(株) (注) 4	東京都 千代田区	100	道路関連事業	100.00	—	当社の商 品販売・ 同社の 業務指導	2	あり	—
(株)北日本ハイウェイ	宮城県仙台市 宮城野区	20	道路関連事業	84.13	—	当社の 業務委託 同社の 業務指導	4	—	—
(株)アイ・エス・エス グループ本社	東京都目黒区	10	道路関連事業	100.00	—	—	2	—	—
(株)アイ・エス・エス (注) 2	東京都港区	10	道路関連事業	100.00 (100.00)	—	当社の 業務委託 同社の 業務指導	2	—	—
(株)アイ・エス・エス・ アールズ(注) 2	同上	10	道路関連事業	100.00 (100.00)	—	—	2	—	—

(注) 1 子会社の「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。

2 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。

3 有価証券報告書の提出会社であります。

4 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えている連結子会社の主要な損益情報等は以下のとおりであります。

項目	(株)東京ハイウェイ	ハイウェイ開発(株)
(1) 売上高(千円)	4,235,882	3,218,636
(2) 経常利益(千円)	389,460	265,056
(3) 当期純利益(千円)	286,818	165,195
(4) 純資産額(千円)	2,402,278	1,011,118
(5) 総資産額(千円)	2,901,944	1,545,558

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年1月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
道路関連事業	482 (232)
レジャー事業	49 (120)
不動産事業	6 (3)
全社(共通)	18
合計	555 (355)

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

2019年1月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
219 (18)	45.1	13.8	6,463,428

セグメントの名称	従業員数(名)
道路関連事業	165 (11)
レジャー事業	34 (7)
不動産事業	2
全社(共通)	18
合計	219 (18)

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

提出会社には従業員組合があります。なお、提出会社及び連結子会社とも労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は創業以来、「社会に奉仕すること」を企業理念として、道路事業、レジャー事業、不動産事業の経営を行っており、道路の維持管理を通して生活環境整備事業の推進を図るとともに、映画興行と飲食店経営を通して豊かな生活を提供し、社会の発展に一層貢献することを基本的な考え方として事業活動を進めております。

(2) 中長期的な会社の経営戦略および目標とする経営指標等

① 経営戦略

〈道路関連事業〉

- ・受注拡大および労働環境の整備に向けた体制の強化を図る
- ・維持管理業務の確実な受注に努める
- ・大規模更新・修繕事業の受注に努める
- ・技術開発の推進に努める

〈レジャー事業〉

(興行事業)

- ・有楽町スバル座において、2019年10月閉館最終日まで、良質でお客様に感動を与える作品を上映する

(飲食事業)

- ・衛生管理の徹底と接客サービスの向上に努める
- ・既存飲食店運営の強化および効率化に努める
- ・新規飲食店の出店に努める
- ・的確な商品提案による物品販売のシェア拡大に努める

(マリーナ事業)

- ・新規管理マリーナの受託を目指す

〈不動産事業〉

- ・所有物件の計画的補修工事
- ・新たな不動産の取得

上記に加え、適切な資本政策とコーポレートガバナンスの充実を図り、M&A等の投資可能性を追求しながら、収益基盤の多様化を推進してまいります。

② 目標とする経営指標等

当社は、上記経営戦略のもと様々な経営施策と効果的な投資を展開し、2022年1月期までの3カ年の中期目標値として、2018年1月期の実績数値であった売上高250億円、営業利益30億円を更に上回る売上高、営業利益を達成できるよう努めてまいります。

(3) 経営環境および対処すべき課題

今後のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、景気は緩やかな回復が続くことが期待されます。ただし、通商問題の動向や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等により、先行きは依然として不透明な状況となっております。

当社グループは、今後3年間における《中期経営戦略2019-2022TRY！2022》を策定し、その新たな目標に向かい、各事業において取り組んでまいります。

(道路関連事業)

当社グループの主力事業である道路関連事業は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ整備が最終段階を迎えておりますが、道路・橋梁等の既存構造物の老朽化・長寿命化対策は今後も継続されることが予想され、また、2025年大阪万博開催の決定を受け、当社グループの強みが活かせる事業の拡大も期待されます。

このような状況のなか、当社グループは労働環境の整備に取り組むとともに、建設技能者の確保・育成に努めてまいります。

事業面においては、従前よりの道路維持管理業務の受注継続に加え、各高速道路等で進められている大規模更新・修繕工事における施工協力や附帯する設計業務、交通規制業務および道路清掃業務等の受注に向け、積極的な営業展開に努めてまいります。

(レジャー事業)

飲食事業は、食の安全・安心を第一とした衛生管理の徹底と、より一層の接客サービスの向上を図り、来店者数の増加に努めてまいります。また、既存店舗の改装や店舗運営の効率化を進め、収益増に努めるとともに、立地条件の良い新規店舗の出店を目指してまいります。物品販売では、高速道路売店・観光施設売店の顧客ニーズにあった商品提案を行い、販路拡大に向け積極的な営業活動に努めてまいります。

マリーナ事業は、イベント開催等による顧客サービスの充実により、施設来場者の増加を図り、既存マリーナの継続的な運営に努めるとともに、新規マリーナ運営の受託を目指してまいります。

なお、映画興行は、『有楽町スバル座』が2019年10月をもって閉館し、興行事業を終了することを決定しましたが、最終興行日までより良い作品の上映に努めてまいります。

(不動産事業)

不動産事業は、所有物件の計画的な修繕を実施し、テナントニーズへの付加価値を高めるとともに、安定的な収益が望める新規物件の取得を目指してまいります。

セグメント別は以上となりますが、上記戦略に加え、適切な資本政策とコーポレートガバナンスの充実を図り、M&A等の投資可能性を追求しながら、収益基盤の多様化を推進してまいります。

また、2019年3月に当社連結子会社である(株)協立道路サービス（以下「本件子会社」という。）の元代表取締役により売掛金が着服されていた疑いが生じたため、当社と利害関係を有しない外部の専門家である弁護士および公認会計士から構成される特別調査委員会を設置し、事実関係および発生原因の究明等の調査を行った結果、売掛金の着服等の事実が判明いたしました。当社は連結子会社の元代表取締役による不正行為を真摯に受け止め、当社グループ全体においてコンプライアンス教育を徹底するとともに、当社における子会社管理体制の強化を図り、役職員一丸となって再発防止に努めてまいります。

なお、再発防止策の具体的内容は以下のとおりであります。

(再発防止策の内容)

① 本件子会社における業務分掌の見直し・業務プロセスのルール化

当社は、本件不正行為を他の役職員が長きにわたり認識しえなかったことを重大な問題であると捉え、以下の3項目を再発防止策の重点項目として推進してまいります。

- ア 本件子会社における業務分掌の見直し
案件を受注してくる営業担当者と、顧客に対して請求手続きを行う営業担当者とを別の者とする等、一連の業務プロセスに複数の人間が関与する体制を構築して、牽制機能の強化を図る。これによって、本件子会社社長を含め、特定の役職員の権限濫用による不正行為を防止できる体制とする。
 - イ 本件子会社における業務プロセスのルール化
下請作業を受注した案件については、すべて「注文書・注文請書」を発注業者と取り交わし、「注文書・注文請書」において、作業代金については銀行振込みによる旨を明記して、現金、小切手等による回収を禁止する。
また、社長印（使用印）捺印簿を作成したうえで、その目的等を記録するほか、押印した書類を添付して相当期間保管する。
 - ウ 当社における検証手続きの見直し
当社関西支社において、本件子会社の顧客に対する請求書や下請事業者からの請求書に加えて、「注文書・注文請書」も確認し、各書類の整合性を検証するなど、牽制機能を強化する。
- ② コンプライアンス教育の充実
本件子会社および当社関西支社において、毎月の関西支社における所長会議、随時開催の責任者会議、グループ役職員が集まる年一回開催の安全大会、各事業所での所内会議、安全会議等で、「スバル興業グループ行動規範」や「コンプライアンス・リスク管理規程」を周知させ、役職員1人1人に対するコンプライアンス教育を徹底してまいります。
- ③ 本件子会社に対する管理体制の強化
本件不正行為が発生した背景には、本件子会社元社長と取引先との関係性などを安易に信用し、元社長に任せていれば良いという特別視が当社に生じていたという事情があります。そのため、以下のとおり、本件子会社に対する管理体制の強化を図ります。
- ア 他の子会社と同様に当社役員を兼務役員、監査役として派遣し、監視体制を強化する。
 - イ 四半期ごとに当社の取締役会において、本件子会社における主な案件の進捗状況や、現場において生じている問題点等について報告を受け、当社取締役会による監督を強化する。
 - ウ 関西支社社長が、本件子会社の下請事業者との情報交換を密にし、必要に応じて業務の実態調査を行い、評価する。
 - エ 関西支社経理部門の人員を拡充し、本件子会社の経理に対するモニタリングを強化する。
 - オ 内部監査室の人員を拡充し、当社における本件子会社に対する監査機能を強化する。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 公共工事への依存

当社グループは売上高に占める公共工事の割合が非常に高いため、国及び地方自治体の財政事情により予想を上回る公共工事の削減が行われた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 法的規制

当社グループの主力事業である道路関連事業は、建設業法やこれら関連法律の規制を受けており、法律の改正や法的規制の新設により業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 取引先の信用リスク

当社グループが民間から工事を請け負った場合、急激な事業環境の変化等により発注者である取引先が信用不安に陥ったときには貸倒れが発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 保有資産の価格変動

当社グループは土地、株式等を保有しており、今後時価が著しく下落した場合には減損の対象となり業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況は以下のとおりです。

①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、各種政策の効果もあり、個人消費の持ち直しや設備投資が増加する等、緩やかに景気回復が続きました。しかしながら、通商問題の動向や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等により、先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

このような情勢のもと、当社グループは、3か年計画《中期経営戦略2016－2019TRY！2019》の最終年度にあたり、売上高220億円、営業利益20億円の目標に向け、各事業において業績の向上に努めました結果、当連結会計年度における売上高は251億6千4百万円（前期比7.8%増）、営業利益は30億6千2百万円（前期比2.8%減）、経常利益は28億8千3百万円（前期比9.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は18億2千万円（前期比13.1%減）となり、当初掲げた目標値を大幅に上回ることができました。

また、当社連結子会社である㈱協立道路サービスの元代表取締役により売掛金の着服等が行われていた事実が判明いたしました。その結果、業績への影響額は、営業費用の減少1千5百万円により、営業利益に与える影響額は1千5百万円の増加、貸倒引当金の追加計上等による営業外費用の増加2億1千9百万円により、経常利益、税金等調整前当期純利益に与える影響額は2億4百万円の減少、法人税、住民税及び事業税の増加7百万円、法人税等調整額（貸方）1百万円の増加により、親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額は2億1千1百万円の減少となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(道路関連事業)

道路関連事業は、道路、橋梁等の維持・補修分野における公共投資は底堅く推移したものの、慢性的な建設技能者不足や企業間における熾烈な受注競争等もあり、依然として予断を許さない状況が続きました。

このような状況のなか、営業部門においては、積算精度を高めることにより公共工事の受注拡大を図り、積極的な営業活動により民間受注の増加にも努めました。現業部門においては、安全管理に重点を置き、リスクマネジメントの強化を図り、確実な施工に努めました。また、グループ企業間の情報共有を徹底し、施工、設計協力や社員教育による技術力の強化を図るとともに、業務の効率化とコスト削減による収益力の向上に努めました。

以上の結果、道路関連事業の売上高は217億7千9百万円（前期比8.3%増）、セグメント利益は32億7千5百万円（前期比2.0%増）となりました。

（レジャー事業）

『有楽町スバル座』における映画興行は、期中に邦画18作品、洋画3作品の計21作品を上映し、「教誨師」をはじめ「ミッドナイト・バス」「輪違屋糸里 京女たちの幕末」等の話題作の上映もありましたが、全体的には低調に推移し、売上高は前期を下回りました。

飲食事業は、人手不足や相次ぐ自然災害の影響等による原材料価格の上昇、コンビニエンスストア等との業種を超えた競争の激化もあり、依然として厳しい事業環境が続きました。

このような状況のなか、飲食店舗においては、衛生管理の徹底と接客サービスの向上を図り、また、物品販売においては、顧客ニーズにあった商品提案を行い、業務用食材や炭酸飲料水等の販売拡大に向け、積極的な営業活動に努めましたところ、売上高は前期を上回りました。

なお、期中4月に南イタリア・シチリア料理『エトナマーレ』（神奈川県横浜市）を開店しましたが、11月に『ドトールコーヒーショップ イーサイト上尾店』（埼玉県上尾市）を、1月に『ドトールコーヒーショップ 神田駿河台店』（東京都千代田区）を閉店しましたため、当連結会計年度末現在の飲食店舗数は9店舗となりました。

マリーナ事業は、ヨットレース「スバルザカップ」や「マリンフェスティバル」等の各種イベントの開催により、利用者サービスの向上に努めましたところ、『東京夢の島マリーナ』『浦安マリーナ』において、年間契約の船舶係留数が高水準に推移しました。また、船舶給油所の利用者数の増加や、「イーノの森」におけるバーベキューステーションも好調に稼働したこともあり、売上高は前期を上回りました。

以上の結果、レジャー事業全体の売上高は27億5千5百万円（前期比5.4%増）となりましたが、期中に新規飲食店開店に伴う費用を計上したこともあり、セグメント利益は1億4千1百万円（前期比25.2%減）となりました。

（不動産事業）

不動産事業は、『吉祥寺スバルビル』をはじめとした各賃貸物件は堅調に稼働し、売上高は6億2千9百万円（前期比1.5%増）となりましたが、『盛岡パーキング』において大規模塗装工事を実施した影響もあり、セグメント利益は3億4千7百万円（前期比4.2%減）となりました。

なお、期中9月に千葉県松戸市内に事業用地を取得し、賃貸を開始しております。

財政状態については、次のとおりであります。

当連結会計年度末の総資産は、現金及び預金、未成工事支出金、投資有価証券の増加、土地の取得等により前連結会計年度末に比べ10億7千5百万円増の268億3千万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の増加等がありましたが、未払法人税等の減少等により前連結会計年度末に比べ6千1百万円減の45億9千5百万円となりました。

純資産は、非支配株主持分の減少がありましたが、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べ11億3千7百万円増の222億3千4百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末に比べ5億2千4百万円増加し、74億2百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、21億7千4百万円（前年同期比7億5百万円減）となりました。これは主にたな卸資産の増加2億6千2百万円、売上債権の増加6千4百万円、法人税等の支払額12億9千2百万円等により資金の減少があったものの、税金等調整前当期純利益29億2千4百万円、減価償却費5億4千8百万円、仕入債務の増加5千3百万円等により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、9億4千万円（前年同期は12億6千6百万円の資金減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出7億9千4百万円、投資有価証券の取得による支出1億9千万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、7億8百万円（前年同期は3億4千9百万円の資金減）となりました。これは主に配当金の支払い、子会社株式の取得によるものであります。

③生産、受注及び販売の実績

当社グループ（当社及び連結子会社）では、生産実績を定義することが困難であるため、「生産の実績」は記載しておりません。

1. 受注高及び受注残高

区分	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)			
	受注高(千円)	前年同期比 (%)	受注残高(千円)	前年同期比 (%)
道路関連事業	21,062,043	△11.6	6,825,678	△9.5

(注) 1 当社グループでは道路関連事業以外は受注生産を行っておりません。

2 受注高及び受注残高には、消費税等は含まれておりません。

2. 売上実績

区分	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)	
	売上高(千円)	前年同期比(%)
道路関連事業	21,779,878	8.3
レジャー事業	2,755,206	5.4
不動産事業	629,272	1.5
合計	25,164,357	7.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 主な相手先別の売上実績及び当該売上実績の総売上実績に対する割合

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

相手先	売上高(千円)	割合(%)
阪神高速技術株式会社	2,580,566	11.1
中日本ハイウェイ・メンテナンス東名株式会社	2,462,217	10.5

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

相手先	売上高(千円)	割合(%)
中日本ハイウェイ・メンテナンス東名株式会社	2,917,027	11.6
阪神高速技術株式会社	2,509,613	10.0

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。なお、連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、第5「経理の状況」 1「連結財務諸表等」「注記事項」の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

② 経営成績の分析

経営成績の分析につきましては、(1)経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況に記載のとおりであります。

③ 財政状態の分析

財政状態の分析につきましては、(1)経営成績等の状況の概要 ①財政状態及び経営成績の状況に記載のとおりであります。

④ キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、(1)経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況に記載のとおりであります。

(3) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、商品及び原材料の購入のほか、外注費、修繕費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要の主なものは、新たな不動産の取得、新規飲食店の出店及びM&A投資等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本方針としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、自己資金及び金融機関からの長期借入を基本方針としております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度中における設備投資の総額は8億7千万円で、その主なものは道路関連事業における作業用車両の購入、事業用建物および不動産事業における事業用地の取得等に係わるものであります。なお、これに要した資金はすべて自己資金でまかなっております。

(道路関連事業)

道路関連事業では作業用車両等の購入等の取得を中心とする総額4億7千1百万円の設備投資を実施いたしました。

(レジャー事業)

レジャー事業では『エトナマーレ』店の開店に伴う内装設備等を行い、総額1億4千1百万円の設備投資を実施いたしました。

(不動産事業)

不動産事業では千葉県松戸市所在事業用土地の取得等を行い、総額2億4千3百万円の設備投資を実施いたしました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2019年1月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物	機械装置 及び運搬具	土地 〔面積㎡〕	その他	合計	
東京 (東京都大田区)	道路関連事業	作業用車両等	52,236 (3,370)	22,987	1,005,940 [2,512]	3,971	1,085,136 (3,370)	14
多摩 (東京都府中市)	道路関連事業	作業用車両等	10,206	62,363	52,223 [1,476]	1,327	126,119	19
仙台 (宮城県仙台市 宮城野区)	道路関連事業	作業用車両等	7,623	15,562	49,123 [810]	1,695	74,005	15
大阪 (大阪府大阪市 鶴見区)	道路関連事業	作業用車両等	27,026 (996)	1,195	190,422 [1,239]	568	219,214 (996)	10
西宮 (兵庫県西宮市)	道路関連事業	作業用車両等	31,366	1,290	233,337 [2,086]	60	266,054	6
神戸 (兵庫県神戸市 東灘区)	道路関連事業	作業用車両等	7	22,165	—	3,047	25,220	28
阪神 (兵庫県西宮市)	道路関連事業	作業用車両等	101,211	555	280,384 [2,867]	553	382,704	5
名古屋 (愛知県名古屋市 港区)	道路関連事業	作業用車両等	15,973	86,968	109,947 [694]	4,214	217,103	11
太陽光発電所 (兵庫県姫路市)	道路関連事業	太陽光発電設備等	6,985	736,977	— [45,371]	803	744,766	1
青山ドトール (東京都港区)	レジャー事業	電気設備等	12,072 (14,816)	—	—	1,161	13,234 (14,816)	—
大手町ドトール (東京都千代田区)	レジャー事業	電気設備等	12,760 (10,480)	—	—	592	13,353 (10,480)	—
大宮ドトール (埼玉県さいたま市 大宮区)	レジャー事業	電気設備等	37,180 (23,370)	—	—	5,801	42,982 (23,370)	—
エトナマーレ (神奈川県横浜市)	レジャー事業	電気設備等	60,271 (26,834)	7,669	—	5,212	73,153 (26,834)	—
夢の島マリーナ (東京都江東区)	レジャー事業	事業用船舶等	15,790 (238,400)	15,739	—	25,256	56,786 (238,400)	20
浦安マリーナ (千葉県浦安市)	レジャー事業	事業用建物等	39,281 (51,357)	240,059	—	6,976	286,317 (51,357)	7
吉祥寺スバルビル (東京都武蔵野市)	不動産事業	賃貸用建物	542,671	—	91,597 [817]	2,146	636,415	1
銀座スバルビル (東京都中央区)	不動産事業	賃貸用建物	34,161	—	362,188 [73]	0	396,349	—
盛岡パーキング (岩手県盛岡市)	不動産事業	賃貸駐車場	364,523	—	73,120 [130]	102	437,746	—
新木場倉庫 (東京都江東区)	不動産事業	賃貸用倉庫	698,297	0	950,168 [3,790]	—	1,648,465	—
松戸駐車場他 (千葉県松戸市他)	不動産事業	賃貸駐車場他	16,961 (1,249)	—	819,087 [5,841]	450	836,499 (1,249)	—
本社 (東京都千代田区)	全社	内装設備等	1,800 (63,553)	4,430	—	11,807	18,037 (63,553)	17

(2) 国内子会社

2019年1月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称 (会社名)	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物	機械装置 及び運搬具	土地 〔面積㎡〕	その他	合計	
御殿場 (静岡県御殿場市)	道路関連事業 (株東京ハイ ウェイ)	作業用車両等	44	41,373	—	2,579	43,997	15
小田原 (神奈川県小田原市)	道路関連事業 (株東京ハイ ウェイ)	作業用車両等	3,052	21,977	21,777 [102]	2,075	48,882	6
南大阪 (大阪府藤井寺市)	道路関連事業 (ハイウェイ 開発株)	作業用車両等	216,335	0	270,575 [2,301]	5,332	492,242	22

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

(注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、器具及び備品、リース資産であります。

3 建物欄の(外書)は、賃借中の事務所等であり、その年間賃借料を表示しております。

4 土地の一部を賃借しており、その年間賃借料は13,051千円であります。なお、賃借している土地の面積は(外書)しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末における重要な設備の新設、除却等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

当社は、賃貸等不動産として所有しておりました不動産セグメントの銀座スバルビル（東京都中央区所在）を、2019年3月5日に譲渡いたしました。

詳細は、第5「経理の状況」1「連結財務諸表等」「注記事項」の「重要な後発事象」に記載しております。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年5月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,662,000	2,662,000	東京証券取引所 (市場第一部)	<ul style="list-style-type: none"> 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数 100株
計	2,662,000	2,662,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2017年8月1日(注)	△23,958,000	2,662,000	—	1,331,000	—	1,057,028

(注) 2017年8月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。

(5) 【所有者別状況】

2019年1月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	19	25	69	52	4	4,057	4,226	—
所有株式数(単元)	—	2,153	115	14,175	2,286	7	7,586	26,322	29,800
所有株式数の割合(%)	—	8.18	0.44	53.85	8.68	0.03	28.82	100	—

(注) 1 上記「その他の法人」の中に6単元の証券保管振替機構名義の株式が含まれております。

2 自己株式91,314株は「個人その他」に913単元、「単元未満株式の状況」に14株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
東宝株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目2番2号	1,360	52.93
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB (常任代理人 メリルリンチ日本証券株式会社)	MERRILL LYNCH FINANCIAL CENTRE 2 KING EDWARD STREET LONDON EC1A 1 HQ (東京都中央区日本橋1丁目4番1号 日本橋一丁目三井ビルディング)	84	3.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	63	2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	32	1.27
ROYAL BANK OF CANADA (CHANNEL ISLANDS) LIMITED-REGISTERED CUSTODY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	CANADA COURT, UPLAND ROAD, ST PETER PORT GUERNSEY, GY1 3BQ, CHANNEL ISLANDS (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	28	1.08
GOLDMAN, SACHS & CO. REG (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	27	1.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	25	0.97
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟)	21	0.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	20	0.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	19	0.74
計	—	1,683	65.47

(注) 1 当社は自己株式91千株(3.43%)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

2 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 91,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,540,900	25,409	—
単元未満株式	普通株式 29,800	—	1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,662,000	—	—
総株主の議決権	—	25,409	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が600株(議決権6個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が14株含まれております。

3 普通株式は、完全議決権株式であり権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

② 【自己株式等】

2019年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) スバル興業株式会社	東京都千代田区有楽町 一丁目10番1号	91,300	—	91,300	3.43
計	—	91,300	—	91,300	3.43

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	857	5,302
当期間における取得自己株式	93	554

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年4月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(—)	—	—	—	—
保有自己株式数	91,314	—	91,407	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年4月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、財務体質の強化に努め、将来の資金需要に備えた内部留保を勘案しつつ、安定した配当を行うことを基本方針としておりますが、業績動向を踏まえた株主の皆様への適切な利益還元も経営の重要な課題と認識しております。

配当政策といたしましては、1株当たりの基本配当額をベースにし、業績が予想や目標をさらに上回って推移した場合には、業績連動分として追加配当も検討していく方針とし、株主の皆様に対する利益還元の充実を図っております。

当社は、剰余金の配当を年2回（中間、期末）行うことを基本的な方針としております。なお、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会の決議であります。

事業年度の剰余金の期末配当金につきましては、上記の方針に基づき1株当たり140円00銭（普通配当50円00銭、特別配当90円00銭）といたしました。なお、中間配当金として1株当たり50円00銭をお支払いいたしましたので、当期の年間配当金は1株当たり190円00銭となりました。

基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
2018年9月6日 取締役会決議	128,556	50.00
2019年4月25日 定時株主総会決議	359,896	140.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	2015年1月	2016年1月	2017年1月	2018年1月	2019年1月
最高(円)	485	458	563	653 [8,500]	7,450
最低(円)	327	356	357	444 [5,610]	5,000

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 2017年8月1日付けで10株を1株に株式併合を実施したため、第104期の株価については株式併合前の最高・最低株価を記載し、[]にて株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年8月	9月	10月	11月	12月	2019年1月
最高(円)	6,240	6,110	5,930	5,690	5,800	5,800
最低(円)	5,550	5,380	5,030	5,100	5,000	5,170

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

(1) 有価証券報告書提出日(2019年5月7日)現在の役員 の 状 況

男性13名 女性1名(役員のうち女性の比率7.1%)

役 名	職 名	氏 名	生 年 月 日	略 歴	任期	所有株式数 (百株)
代表取締役 取締役会長		小 林 憲 治	1955年1月17日生	1977年4月 当社入社 1998年4月 当社取締役 2002年9月 当社道路(現:道路関連)事業本部長 2003年4月 当社常務取締役 2004年4月 当社代表取締役社長 2004年4月 当社管理本部長 2008年2月 当社道路関連事業本部長 2010年4月 当社レジャー事業本部長兼不動産経営担当 2018年4月 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	12
代表取締役 取締役社長		永 田 泉 治	1960年2月20日生	1983年4月 当社入社 2012年3月 当社関西支社技術部部长 2012年4月 当社取締役 2012年4月 当社関西支社技術部長 2014年6月 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部長 2016年4月 当社常務取締役 2018年4月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	10
専務取締役	管理本部長 兼管理本部経理担当	松 丸 光 成	1955年2月27日生	1978年4月 当社入社 1998年4月 当社管理本部総務部長兼社長室長 1999年4月 当社取締役 2002年9月 当社道路(現:道路関連)事業本部関西支社長 2010年4月 当社常務取締役 2012年4月 当社代表取締役常務取締役 2012年7月 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部長 2014年4月 当社代表取締役専務取締役 2014年6月 当社管理本部長兼レジャー事業本部長兼同本部 興行部長兼不動産経営部長 2017年3月 当社管理本部長兼レジャー事業本部長兼同本部 興行部長兼不動産経営担当 2018年4月 当社専務取締役(現任) 2019年4月 当社管理本部長兼管理本部経理担当(現任)	(注)3	10
常務取締役		佐 波 宏 夫	1953年9月19日生	1977年4月 当社入社 1998年4月 当社管理本部経理部部长 2004年4月 当社取締役 2004年4月 当社管理本部経理部部长 2012年4月 当社管理本部長兼同本部経理部部长 2014年4月 当社常務取締役(現任) 2017年3月 当社管理本部経理担当	(注)3	8
常務取締役	関西支社長 兼同支社管理部長	堀 内 信 之	1957年7月12日生	1980年4月 当社入社 2010年4月 当社取締役 2010年4月 当社関西支社管理部長 2012年7月 当社関西支社長兼同支社総務部長兼同支社管理 部長 2018年4月 当社常務取締役(現任) 2019年4月 当社関西支社長兼同支社管理部長(現任)	(注)3	10
取締役	道路関連事業本部長 兼同本部管理部長	今 沢 宏 之	1962年7月31日生	1985年4月 当社入社 2010年4月 当社関西支社名古屋支店長 2012年3月 当社関西支社技術部部长兼同支社名古屋支店長 2012年4月 当社取締役(現任) 2014年4月 当社関西支社技術部長 2018年4月 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部長 (現任)	(注)3	7

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役	道路関連事業本部 東北支店長	岡部 一 朗	1955年1月19日生	1979年4月 当社入社 2008年4月 当社道路関連事業本部マリナー事業部長※ ※マリナー事業部は2014年6月にレジャー事業 本部に移管。 2010年4月 当社レジャー事業本部長代理兼同本部興行部長 兼同本部外食部長兼事業部長(現:飲食事業部長) 兼不動産経営部長 2014年4月 当社取締役(現任) 2014年6月 当社道路関連事業本部東北支店長(現任)	(注)3	1
取締役	レジャー事業本部長 兼同本部興行部長 兼同本部飲食事業部長 兼同本部マリナー事業 部長兼不動産経営担当	竹島 美 喜	1959年10月24日生	1982年4月 当社入社 2009年11月 当社社長室長 2012年4月 当社管理本部総務部長 2017年4月 当社取締役(現任) 2019年4月 当社レジャー事業本部長兼同本部興行部長兼同 本部飲食事業部長兼同本部マリナー事業部長兼 不動産経営担当(現任)	(注)3	5
取締役		太古 伸 幸	1965年12月4日生	1988年4月 東宝(株)入社 2005年4月 同社グループ経営企画(現:経営企画)部長 2008年5月 同社取締役 2010年5月 (株)東宝ビジネスサポート 代表取締役社長 (現任) 2012年4月 東宝(株)経営企画担当兼経営企画部長 2014年4月 当社取締役(現任) 2014年5月 東宝(株)常務取締役 2014年5月 同社経営企画担当兼人事管掌兼総務管掌 2016年5月 同社経営企画担当兼不動産経営管掌兼人事管掌 兼総務管掌(現任) 2017年5月 同社専務取締役(現任) 2018年4月 オーエス(株)社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	1
取締役		石塚 泰	1955年7月15日生	1978年4月 東宝(株)入社 2003年4月 同社労政部長 2008年5月 同社取締役(現任) 2009年6月 同社人事労政部長 2014年5月 同社人事・総務担当(現任) 2017年4月 当社取締役(現任)	(注)3	1
取締役		宮家 邦彦	1953年10月12日生	1978年4月 外務省入省 1996年7月 同省中近東アフリカ局中近東第二課長 1998年1月 同省中近東アフリカ局中近東第一課長 1998年8月 同省北米局日米安全保障条約課長 2000年9月 同省在中華人民共和国日本国大使館公使 2004年1月 同省在イラク日本国大使館公使 2004年7月 同省大臣官房参事官兼中東アフリカ局参事官兼 内閣事務官 2005年8月 (株)外交政策研究所 代表取締役(現任) 2006年4月 立命館大学客員教授(現任) 2006年10月 総理公邸連絡調整官 2009年4月 キヤノングローバル戦略研究所研究主幹(現任) 2014年4月 当社社外取締役(現任)	(注)3	—
取締役 (常勤監査 等委員)		遠藤 信 英	1959年1月4日生	1981年4月 東宝不動産(株)入社 2007年7月 同社管理本部経理部長 2010年5月 同社取締役 2012年4月 当社社外監査役 2012年5月 東宝不動産(株)取締役経理担当兼経理部長 2016年4月 当社社外常勤監査役 2017年4月 当社社外取締役(常勤監査等委員)(現任)	(注)4	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役 (常勤監査 等委員)		鈴木誠之	1953年9月19日生	1979年4月 当社入社 2002年9月 当社管理本部総務部長兼社長室長 2004年4月 当社取締役 2009年11月 当社管理本部総務部長 2010年4月 当社管理本部長兼総務部長 2012年4月 当社常勤監査役 2017年4月 当社取締役(常勤監査等委員)(現任)	(注)4	3
取締役 (監査等 委員)		野元三夏 (弁護士登録名: 原澤三夏)	1969年7月11日生	1995年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 2004年11月 大西昭一郎法律事務所入所 現在に至る 2006年6月 東京製鐵(株)社外監査役 2014年4月 慶應義塾大学法科大学院 非常勤講師 2015年6月 東京製鐵(株)社外取締役(監査等委員)(現任) 2016年4月 当社社外監査役 2017年4月 当社社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	—
計						69

- (注) 1 所有株式数については、百株未満を切り捨てて表示しております。
- 2 取締役宮家邦彦、遠藤信英、野元三夏の3氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 3 取締役の任期は、2018年1月期に係る定時株主総会終結の時から2019年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2017年1月期に係る定時株主総会終結の時から2019年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査等委員会の体制は次の通りであります。
- 委員長 遠藤信英
- 委員 鈴木誠之、野元三夏
- 6 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
神田文浩	1973年9月26日生	2005年10月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 2005年10月 大西昭一郎法律事務所 入所 2016年1月 はるにれ法律事務所開設 現在に至る	—

(2) 2019年4月25日開催の2019年1月期に係る定時株主総会において、決議事項である「取締役（監査等員である取締役を除く。）11名選任の件」および「監査等委員である取締役3名選任の件」が承認可決され、それぞれ取締役が選任されておりますが、目的事項のうち報告事項に関する報告が出来なかったため、当社は2019年5月30日に本総会の継続会を開催いたします。選任されたそれぞれの取締役は、本継続会終結の時をもって就任いたしますので、本継続会終結後の役員の状況は下記のとおりとなります。なお、本総会終結後同日中に開催予定の取締役会及び監査等委員会における決議事項の内容を含めて記載しております。

男性12名 女性2名（役員のうち女性の比率14.3%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
代表取締役 取締役会長		小林 憲治	1955年1月17日生	1977年4月 1998年4月 2002年9月 2003年4月 2004年4月 2004年4月 2008年2月 2010年4月 2018年4月	当社入社 当社取締役 当社道路(現:道路関連)事業本部長 当社常務取締役 当社代表取締役社長 当社管理本部長 当社道路関連事業本部長 当社レジャー事業本部長兼不動産経営担当 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	12
代表取締役 取締役社長		永田 泉治	1960年2月20日生	1983年4月 2012年3月 2012年4月 2012年4月 2014年6月 2016年4月 2018年4月	当社入社 当社関西支社技術部部长 当社取締役 当社関西支社技術部部长 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部部长 当社常務取締役 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	10
専務取締役	管理本部長 兼管理本部経理担当	松丸 光成	1955年2月27日生	1978年4月 1998年4月 1999年4月 2002年9月 2010年4月 2012年4月 2012年7月 2014年4月 2014年6月 2017年3月 2018年4月 2019年4月 2019年5月	当社入社 当社管理本部総務部部长兼社長室長 当社取締役 当社道路(現:道路関連)事業本部関西支社長 当社常務取締役 当社代表取締役常務取締役 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部部长 当社代表取締役専務取締役 当社管理本部長兼レジャー事業本部長兼同本部 興行部長兼不動産経営部部长 当社管理本部長兼レジャー事業本部長兼同本部 興行部長兼不動産経営担当 当社専務取締役(現任) 当社管理本部長兼管理本部総務担当兼経理担当 当社管理本部長兼管理本部経理担当(現任)	(注)3	10
常務取締役	関西支社長 兼同支社管理部部长	堀内 信之	1957年7月12日生	1980年4月 2010年4月 2010年4月 2012年7月 2018年4月 2019年4月	当社入社 当社取締役 当社関西支社管理部部长 当社関西支社長兼同支社総務部部长兼同支社管理部部长 当社常務取締役(現任) 当社関西支社長兼同支社管理部部长(現任)	(注)3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
常務取締役	管理本部総務担当	石塚 泰	1955年7月15日生	1978年4月 東宝(株)入社 2003年4月 同社労政部長 2008年5月 同社取締役 2009年6月 同社人事労政部長 2014年5月 同社人事・総務担当 2017年4月 当社取締役 2019年5月 当社常務取締役総務担当(現任)	(注)3	1
取締役	道路関連事業本部長 兼同本部管理部長	今沢 宏之	1962年7月31日生	1985年4月 当社入社 2010年4月 当社関西支社名古屋支店長 2012年3月 当社関西支社技術部部长兼同支社名古屋支店長 2012年4月 当社取締役(現任) 2014年4月 当社関西支社技術部長 2018年4月 当社道路関連事業本部長兼同本部管理部長(現任)	(注)3	7
取締役	道路関連事業本部 東北支店長	岡部 一朗	1955年1月19日生	1979年4月 当社入社 2008年4月 当社道路関連事業本部マリーナ事業部長※ ※マリーナ事業部は2014年6月にレジャー事業本部に移管。 2010年4月 当社レジャー事業本部長代理兼同本部興行部長兼同本部外食部長兼事業部長(現:飲食事業部長)兼不動産経営部長 2014年4月 当社取締役(現任) 2014年6月 当社道路関連事業本部東北支店長(現任)	(注)3	1
取締役	レジャー事業本部長 兼同本部興行部長 兼同本部飲食事業部長 兼同本部マリーナ事業部長兼不動産経営担当	竹島 美喜	1959年10月24日生	1982年4月 当社入社 2009年11月 当社社長室長 2012年4月 当社管理本部総務部長 2017年4月 当社取締役(現任) 2019年4月 当社レジャー事業本部長兼同本部興行部長兼同本部飲食事業部長兼同本部マリーナ事業部長兼不動産経営担当(現任)	(注)3	5
取締役	管理本部総務部長	上野 俊明	1969年1月21日生	1993年4月 当社入社 2017年4月 当社管理本部総務部部长 2019年4月 当社管理本部総務部長(現任) 2019年5月 当社取締役(現任)	(注)3	1
取締役		太古 伸幸	1965年12月4日生	1988年4月 東宝(株)入社 2005年4月 同社グループ経営企画(現:経営企画)部長 2008年5月 同社取締役 2010年5月 (株)東宝ビジネスサポート代表取締役社長(現任) 2012年4月 東宝(株)経営企画担当兼経営企画部長 2014年4月 当社取締役(現任) 2014年5月 東宝(株)常務取締役 2014年5月 同社経営企画担当兼人事管掌兼総務管掌 2016年5月 同社経営企画担当兼不動産経営管掌兼人事管掌兼総務管掌(現任) 2017年5月 同社専務取締役(現任) 2018年4月 オーエス(株)社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役		宮家邦彦	1953年10月12日生	1978年4月 外務省入省 1996年7月 同省中近東アフリカ局中近東第二課長 1998年1月 同省中近東アフリカ局中近東第一課長 1998年8月 同省北米局日米安全保障条約課長 2000年9月 同省在中華人民共和国日本国大使館公使 2004年1月 同省在イラク日本国大使館公使 2004年7月 同省大臣官房参事官兼中東アフリカ局参事官兼内閣事務官 2005年8月 (株)外交政策研究所代表取締役(現任) 2006年4月 立命館大学客員教授(現任) 2006年10月 総理公邸連絡調整官 2009年4月 キヤノングローバル戦略研究所研究主幹(現任) 2014年4月 当社社外取締役(現任)	(注)3	—
取締役 (常勤監査等委員)		遠藤信英	1959年1月4日生	1981年4月 東宝不動産(株)入社 2007年7月 同社管理本部経理部長 2010年5月 同社取締役 2012年4月 当社社外監査役 2012年5月 東宝不動産(株)取締役経理担当兼経理部長 2016年4月 当社社外常勤監査役 2017年4月 当社社外取締役(常勤監査等委員)(現任)	(注)4	1
取締役 (監査等委員)		野元三夏 (弁護士登録名: 原澤三夏)	1969年7月11日生	1995年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 2004年11月 大西昭一郎法律事務所入所 現在に至る 2006年6月 東京製鐵(株)社外監査役 2014年4月 慶應義塾大学法科大学院 非常勤講師 2015年6月 東京製鐵(株)社外取締役(監査等委員)(現任) 2016年4月 当社社外監査役 2017年4月 当社社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	—
取締役 (監査等委員)		上村多恵子	1953年7月6日生	1974年9月 京南倉庫(株)代表取締役(現任) 1998年4月 学校法人甲南学園常任理事 2000年5月 (一社)関西経済同友会常任幹事(現任) 2004年5月 (公社)日本港湾協会理事(現任) 2005年2月 国土交通省 社会資本整備審議会委員 2005年3月 同省 交通政策審議委員 2005年8月 金融庁 金融行政アドバイザー(現任) 2010年9月 日本高速道路保有・債務返済機構 高架下利用審議会委員 2013年3月 (公財)日本道路交通情報センター理事(現任) 2013年10月 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員(現任) 2015年6月 (一社)建設コンサルタンツ協会理事(現任) 2019年5月 当社社外取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	—
計						59

- (注) 1 所有株式数については百株未満を切り捨てて表示しております。
- 2 取締役宮家邦彦、遠藤信英、野元三夏、上村多恵子の4氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 3 取締役の任期は、2019年1月期に係る定時株主総会終結の時から2020年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2019年1月期に係る定時株主総会終結の時から2021年1月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査等委員会の体制は次の通りであります。
- 委員長 遠藤信英
- 委員 野元三夏、上村多恵子

- 6 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (百株)
神田文浩	1973年9月26日生	2005年10月	弁護士登録(第一東京弁護士会)	—
		2005年10月	大西昭一郎法律事務所 入所	
		2016年1月	はるにれ法律事務所開設 現在に至る	

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、変化の激しい経営環境に対応した迅速な意思決定と経営の健全性の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実が経営における重要課題として認識し、透明性、効率性を重視した公正な経営の実現に努めております。

イ 企業統治の体制の概要

監査等委員である取締役は、取締役会における議決権を有し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の選解任および報酬について株主総会で監査等委員会の意見を述べる権限を有しております。当社におきましては、有価証券報告書提出日現在、社外取締役2名を含む3名の監査等委員である取締役が、年12回の開催予定の監査等委員会を構成し、内部監査室との相互の連携により、取締役の業務執行における監査・監督機能の強化を図り、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実に努めてまいります。取締役会は、有価証券報告書提出日現在、上記の社外取締役2名を含む監査等委員である取締役3名と、社外取締役1名を含む取締役（監査等委員である取締役を除く。）11名の計14名で構成し、重要性の高い業務執行の意思決定機能を担い、監査等委員による適切な監査・監督を受けることで、取締役会におけるガバナンスの実効性を確保してまいります。

ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題として位置づけております。取締役会における迅速かつ適正な意思決定および社外取締役による監督・監査機能の強化を図るとともに、経営の透明性・公正性の確保を目的として、監査等委員会設置会社の形態を採用しております。

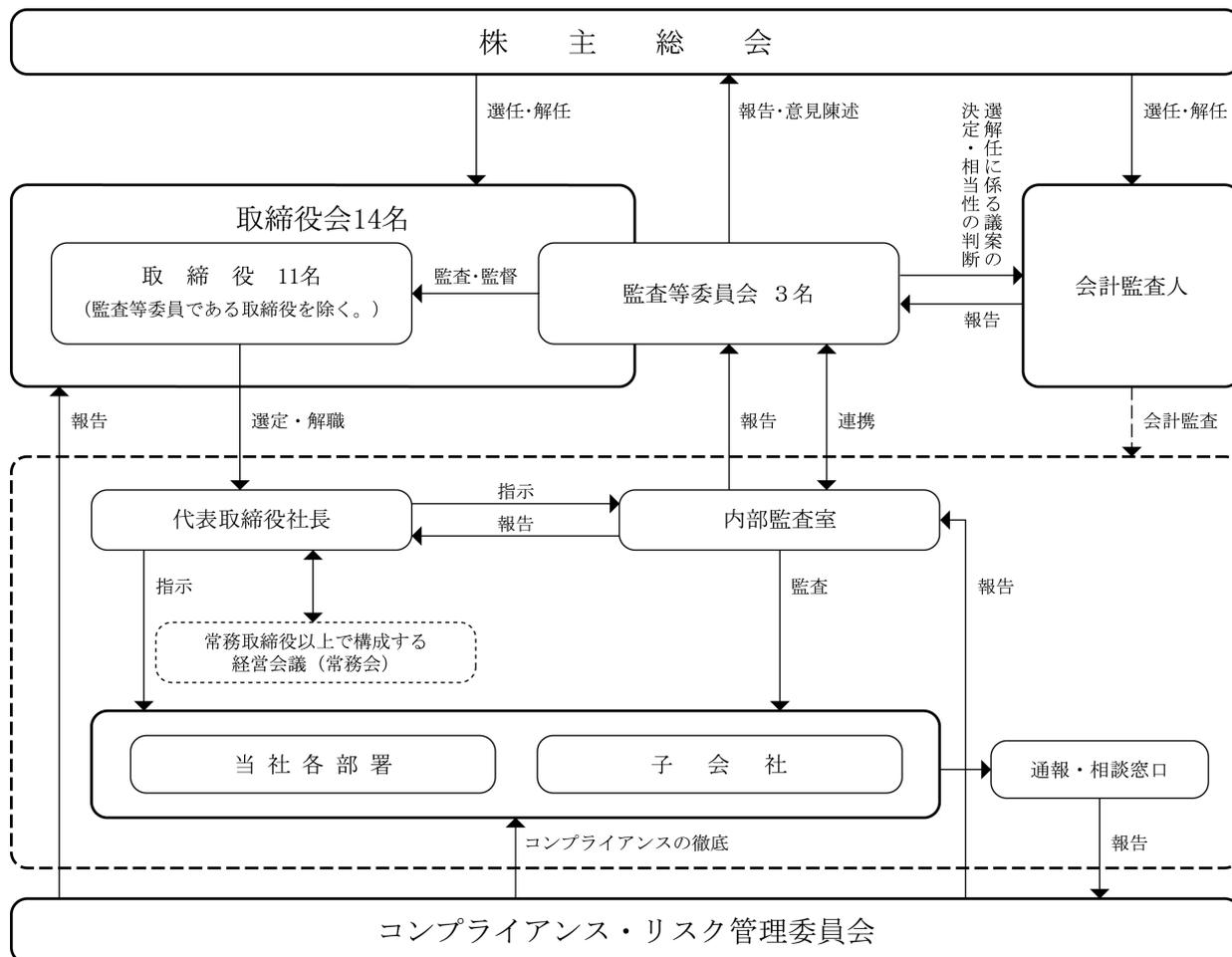
ハ 内部統制システムの整備の状況

当社は「内部統制の体制の基本方針」に基づき、当社グループの内部統制システムの整備・運用を行っております。また、社長直轄の内部監査室を設置し、業務の適正性・財務報告の正確性を確保するため、社内諸規定により職務権限の責任の明確化、職務分掌の確立等を行っております。

ニ リスク管理体制整備の状況

当社グループにおいて企業倫理や法令遵守の徹底に努めるため「スバル興業グループ行動規範」を制定し、「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置するなど、リスク管理体制の構築を目指したコンプライアンス経営の取組みを推進しております。

なお、当社の有価証券報告書提出日現在のコーポレート・ガバナンス体制についての体制図は下記のとおりであります。



ホ 責任限定契約の内容の概要

当社は取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）および社外取締役全員と、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。なお、当該契約が認められるのは、当該役員がその職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がないときに限られております。

② 内部監査および監査等委員監査会の状況

内部監査につきましては、有価証券報告書提出日現在、監査等委員会および会計監査人による法定監査に加え、内部監査室の担当者1名が内部監査実施計画に基づき、監査等委員会と連携しつつ、コンプライアンスおよびリスクマネジメントを含めた経営活動全般にわたる内部統制状況について、各部・各事業所および当社子会社の内部監査を実施してまいります。

監査等委員会は、有価証券報告書提出日現在、常勤の監査等委員2名、非常勤の監査等委員1名の3名で構成され、うち2名は社外取締役であります。監査等委員会は、取締役会その他の重要な会議へ出席し、重要書類の閲覧等により取締役の職務執行における監査・監督を行っております。なお、常勤の社外監査等委員1名が財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査、監査等委員会監査および会計監査の相互連携につきましては、内部監査室と監査等委員会が適宜情報交換を行っているほか、監査等委員会は会計監査人から定期的に監査実施状況等の報告を受けております。また、会計監査人は監査等委員会にヒアリングを行い、情報の共有や意見交換により効率的な監査を実施してまいります。

なお、会計監査人の内部統制監査の実施にあたり、内部監査室は必要に応じて内部統制文書の改訂および社内実施した内部統制プロセスの整備運用状況を報告しております。

③ 社外取締役

当社は、有価証券報告書提出日現在、社外取締役を3名選任しております。

社外取締役の宮家邦彦氏は株式会社外交政策研究所代表取締役および一般財団法人キャノングローバル戦略研究所研究主幹を務めております。また、同氏は、長く外務省に勤務し多くの重職を歴任され、その幅広い活動による高い見識および豊富な経験を活かして、当社の経営判断に独立した立場からの適切な助言が期待できるため、当社グループの企業価値の向上に資すると判断し、社外取締役として選任しているものであります。なお、当社と同氏の間には特別な利害関係はございません。

常勤の監査等委員である社外取締役の遠藤信英氏は2016年4月まで、当社の特定関係事業者（親会社）である東宝不動産株式会社（※）の業務執行者でありました。同氏は、東宝不動産株式会社の取締役として、また、経理業務の専門家としての経験から、当社経営全般に対する十分な監査を期待できるため、監査等委員である社外取締役として選任しているものであります。なお、当社と同氏との間に特別な利害関係はございません。

（※）東宝不動産株式会社は、当社発行済株式総数の50.05%を保有する親会社でありましたが、2015年7月24日付にて、その全株式を東宝株式会社に現物配当したことにより、当社の親会社でなくなりました。なお同社は、2017年3月1日付で東宝株式会社が吸収合併したことにより解散しております。

監査等委員である社外取締役の野元三夏氏は大西昭一郎法律事務所所属の弁護士ならびに他の事業法人の社外取締役であり、当社や当社グループの事情に明るく、かつ弁護士としての専門的な知識や経験に基づく独立・公正な立場からの意見が期待できるため、監査等委員である社外取締役として選任しているものであります。なお、当社は大西昭一郎法律事務所と顧問契約を締結しておりますが、その対価に重要性はございません。また、当社と同氏との間に特別な利害関係はございません。

また、当社は社外取締役を任命するための独立性に関する基準は下記のとおりであり、社外取締役である宮家邦彦氏、遠藤信英氏、野元三夏氏の3名を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として、同取引所に届け出ております。

（社外取締役の独立基準）

当社は、社外取締役が以下の基準のいずれかに当てはまる場合には、独立性を有しないと判断します。

1. 当社グループを主要な取引先とする者(注)1またはその業務執行者
2. 当社グループの主要な取引先(注)2またはその業務執行者
3. 当社からの役員報酬以外に当社グループから多額の金銭その他の財産(注)3を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家（当該財産を得ている者が法人等の団体である場合は、当該団体に所属する者）
4. 当社の主要株主(注)4（当該株主が法人である場合はその業務執行者）
5. 最近1年において次の(1)～(3)のいずれかに該当していた者
 - (1) 前1.～4.のいずれかに該当する者
 - (2) 当社の親会社の業務執行者または業務執行者でない取締役
 - (3) 当社の兄弟会社の業務執行者
6. 前1.～5.に該当する者および当社グループの業務執行者の二親等以内の親族

(注) 1 「当社グループを主要な取引先とする者」とは、当社グループと事業上の取引関係を有し、当該取引関係に基づく当社グループからの年間支払額がその連結売上高の2%を超える者をいう。

(注) 2 「当社グループの主要な取引先」とは、当社グループと事業上の取引関係を有し、当該取引関係に基づく当社グループへの年間支払額が当社の連結売上高の2%を超える者をいう。

(注) 3 「多額の金銭その他の財産」とは、定常的な報酬が過去3年間の平均で年間1,000万円を超える場合をいう。

(注) 4 「主要株主」とは、直接または間接に当社総議決権の10%以上を有する者をいう。

④ 役員報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役（監査等委員である取締役を除く。） （社外取締役を除く。）	168,503	152,568	—	15,935	—	10
取締役（監査等委員） （社外取締役を除く。）	14,300	13,200	—	1,100	—	1
社外役員	25,935	23,940	—	1,995	—	3

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

金額に重要性がないため、記載しておりません。

ニ 役員報酬等の額の決定に関する方針

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個別の報酬額については、取締役会からの委任のもと、常務取締役以上で構成する経営会議において、一定の社内基準をもとに、会社の業績や経営内容、経済情勢等を総合的に考慮したうえで、監査等委員の意見を踏まえて決定しております。また、監査等委員である取締役の個別の報酬額については、監査等委員会の決議により決定しております。なお、当社の取締役は、短期的な利益のみにとらわれることなく健全な企業家精神をもって経営にあたっており、取締役の報酬は、中長期的な視点で決定しておりますので、現時点においては業績連動型の報酬や自社株報酬を導入する必要はないと考えております。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 5 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 237,673千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	36,190	29,704	取引関係維持
㈱三井住友フィナンシャルグループ	943	4,599	取引関係維持
㈱みずほフィナンシャルグループ	11,920	2,477	取引関係維持

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	36,190	21,120	取引関係維持
㈱三井住友フィナンシャルグループ	943	3,814	取引関係維持
㈱みずほフィナンシャルグループ	11,920	2,138	取引関係維持

みなし保有株式

該当事項はありません。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

会計監査につきましては、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しており、当連結会計年度において会計監査業務を執行した公認会計士は、川島繁雄氏と佐瀬剛氏であります。また会計監査業務に係る補助者は公認会計士5名、その他4名であります。

⑦ 取締役の定数

当社の取締役の定数は18名以内であり、当該取締役のうち、監査等委員である取締役は4名以内とし、その過半数は社外取締役と定めております。

⑧ 取締役の選任および解任の株主総会の決議要件

当社は、取締役の選任については、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区分して、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款で定めております。

⑨ 自己株式取得の決定機関

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

⑩ 中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項に定める中間配当の事項について、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑪ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。また、当社は、会社法第427条1項の規定により、取締役会の決議によって、同法423条第1項の取締役（取締役であったものを含む。）の責任を、法令の限度において免除することができるものと定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	39,000	—	36,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	39,000	—	36,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度とも、該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度とも、該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査公認会計士等の独立性を損なうことのないよう監査日数、業務の特性等を勘案した上で決定するものであります。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年2月1日から2019年1月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年2月1日から2019年1月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な連結財務諸表等を作成できる体制を整備しております。また、会計基準等の変更等についての的確に対応するために専門誌の購読、監査法人及び専門情報を有する各種団体の行うセミナー等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,895,319	7,419,797
受取手形及び売掛金	5,301,040	5,195,817
商品	69,992	70,556
未成工事支出金	610,167	888,790
原材料及び貯蔵品	127,751	110,804
繰延税金資産	92,937	93,600
短期貸付金	1,200,000	1,200,000
その他	95,345	101,024
貸倒引当金	△42,854	△52,029
流動資産合計	14,349,700	15,028,362
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,465,876	2,560,110
機械装置及び運搬具（純額）	1,604,110	1,558,861
土地	4,554,587	4,745,096
リース資産（純額）	7,619	7,907
建設仮勘定	1,154	—
その他（純額）	128,596	150,862
有形固定資産合計	※1 8,761,944	※1 9,022,838
無形固定資産		
のれん	701,616	627,761
その他	32,947	66,128
無形固定資産合計	734,564	693,890
投資その他の資産		
投資有価証券	※2, ※3 130,776	※2, ※3 299,610
繰延税金資産	54,083	57,466
差入保証金	852,427	850,740
保険積立金	736,912	742,307
その他	145,810	368,501
貸倒引当金	△11,241	△233,094
投資その他の資産合計	1,908,768	2,085,532
固定資産合計	11,405,277	11,802,261
資産合計	25,754,977	26,830,623

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,720,912	1,774,315
リース債務	3,519	5,652
未払法人税等	760,377	554,699
賞与引当金	98,094	99,873
役員賞与引当金	14,000	28,760
その他	980,227	1,029,263
流動負債合計	3,577,131	3,492,564
固定負債		
リース債務	4,817	13,764
繰延税金負債	36,817	28,155
退職給付に係る負債	239,546	271,346
資産除去債務	250,972	261,954
その他	547,975	528,111
固定負債合計	1,080,127	1,103,332
負債合計	4,657,259	4,595,896
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,331,000	1,331,000
資本剰余金	1,057,028	1,273,811
利益剰余金	18,556,524	19,881,673
自己株式	△338,217	△343,519
株主資本合計	20,606,335	22,142,965
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,262	5,350
その他の包括利益累計額合計	13,262	5,350
非支配株主持分	478,119	86,410
純資産合計	21,097,717	22,234,726
負債純資産合計	25,754,977	26,830,623

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 2月 1日 至 2018年 1月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)
売上高	23,339,446	25,164,357
営業費用	18,640,188	20,292,321
売上総利益	4,699,258	4,872,036
一般管理費	※1 1,547,293	※1 1,809,138
営業利益	3,151,964	3,062,897
営業外収益		
受取利息	1,303	1,674
受取配当金	1,236	7,883
受取保険金	11,411	1,365
受取補償金	8,521	5,178
固定資産売却益	3,830	4,101
貸倒引当金戻入額	3,734	—
その他	23,193	23,939
営業外収益合計	53,232	44,142
営業外費用		
固定資産売却損	8,768	—
為替差損	—	611
貸倒引当金繰入額	—	217,020
その他	9,390	6,037
営業外費用合計	18,159	223,669
経常利益	3,187,037	2,883,371
特別利益		
固定資産売却益	—	※2 2,752
投資有価証券売却益	—	47,863
保険解約返戻金	5,545	21,342
特別利益合計	5,545	71,958
特別損失		
減損損失	—	※3 15,528
固定資産処分損	—	15,473
特別損失合計	—	31,001
税金等調整前当期純利益	3,192,582	2,924,328
法人税、住民税及び事業税	1,075,467	1,084,440
法人税等調整額	△10,848	△10,961
法人税等合計	1,064,619	1,073,478
当期純利益	2,127,963	1,850,850
非支配株主に帰属する当期純利益	33,488	30,700
親会社株主に帰属する当期純利益	2,094,475	1,820,150

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
当期純利益	2,127,963	1,850,850
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,488	△7,912
その他の包括利益合計	※ 2,488	※ △7,912
包括利益	2,130,452	1,842,937
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,096,963	1,812,237
非支配株主に係る包括利益	33,488	30,700

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,331,000	1,057,028	16,796,533	△328,187	18,856,375
当期変動額					
剰余金の配当			△334,484		△334,484
親会社株主に帰属する当期純利益			2,094,475		2,094,475
自己株式の取得				△10,030	△10,030
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,759,990	△10,030	1,749,960
当期末残高	1,331,000	1,057,028	18,556,524	△338,217	20,606,335

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	10,774	10,774	447,210	19,314,360
当期変動額				
剰余金の配当				△334,484
親会社株主に帰属する当期純利益				2,094,475
自己株式の取得				△10,030
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,488	2,488	30,908	33,396
当期変動額合計	2,488	2,488	30,908	1,783,357
当期末残高	13,262	13,262	478,119	21,097,717

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,331,000	1,057,028	18,556,524	△338,217	20,606,335
当期変動額					
剰余金の配当			△495,001		△495,001
親会社株主に帰属する当期純利益			1,820,150		1,820,150
自己株式の取得				△5,302	△5,302
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		216,782			216,782
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	216,782	1,325,149	△5,302	1,536,629
当期末残高	1,331,000	1,273,811	19,881,673	△343,519	22,142,965

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	13,262	13,262	478,119	21,097,717
当期変動額				
剰余金の配当				△495,001
親会社株主に帰属する当期純利益				1,820,150
自己株式の取得				△5,302
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動			△419,828	△203,046
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△7,912	△7,912	28,120	20,207
当期変動額合計	△7,912	△7,912	△391,708	1,137,008
当期末残高	5,350	5,350	86,410	22,234,726

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 2月 1日 至 2018年 1月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,192,582	2,924,328
減価償却費	508,086	548,024
減損損失	—	15,528
のれん償却額	36,927	73,854
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,193	231,027
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△8,714	1,779
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,200	14,760
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	23,144	31,800
固定資産処分損益 (△は益)	—	15,473
有形固定資産売却損益 (△は益)	4,938	△6,854
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△47,863
受取利息及び受取配当金	△2,540	△9,557
為替差損益 (△は益)	—	611
保険解約返戻金	△5,545	△21,342
売上債権の増減額 (△は増加)	△711,163	△64,152
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,004	△262,240
仕入債務の増減額 (△は減少)	312,351	53,372
未払消費税等の増減額 (△は減少)	150,346	△140,590
その他	98,814	99,912
小計	3,590,617	3,457,869
利息及び配当金の受取額	2,517	9,520
法人税等の支払額	△713,704	△1,292,993
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,879,430	2,174,397
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△17,046	△12,047
定期預金の払戻による収入	17,045	12,046
投資有価証券の取得による支出	—	△190,600
投資有価証券の売却による収入	—	54,000
有形固定資産の取得による支出	△493,428	△794,796
有形固定資産の売却による収入	12,613	10,528
貸付けによる支出	—	△5,000
貸付金の回収による収入	1,473	999
保険積立金の積立による支出	△26,324	△48,472
保険積立金の解約による収入	66,144	58,081
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △813,453	—
その他	△13,617	△25,181
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,266,592	△940,442
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△10,030	△5,302
配当金の支払額	△333,234	△493,808
非支配株主への配当金の支払額	△2,580	△2,580
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△203,046
その他	△3,902	△4,160
財務活動によるキャッシュ・フロー	△349,747	△708,897

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年 2月 1日 至 2018年 1月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△580
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,263,090	524,476
現金及び現金同等物の期首残高	5,615,182	6,878,272
現金及び現金同等物の期末残高	※1 6,878,272	※1 7,402,749

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

12社

主要な連結子会社の名称

(株)東京ハイウェイ

ハイウェイ開発(株)

(2) 主要な非連結子会社の名称

(株)名古屋道路サービス

(株)環境清美

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社4社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社の数 一社

(2) 持分法を適用した関連会社の数 一社

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称

(株)名古屋道路サービス

(株)環境清美

持分法を適用しなかった理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

商品、原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

未成工事支出金

個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

道路関連事業関係資産、賃貸ビル資産、マリーナ事業関係資産、

その他の建物及び車両並びに2016年4月1日以後に取得した

定額法

建物附属設備及び構築物

その他の資産

定率法

主な耐用年数

建物及び構築物 2年～50年

機械装置及び運搬具 2年～20年

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア (自社利用分) については、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、退職給付債務の算定は、簡便法によっております。

(5) 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を適用し、その他の工事については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当連結会計年度末における進捗率の見積りは、原価比例法によっております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物相場為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、10年間で均等償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 2018年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

2020年1月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年1月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	5,824,240千円	6,081,619千円

※2 非連結子会社及び関連会社に係る注記

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
非連結子会社及び関連会社に対する投資有価証券(株式)	48,000千円	42,000千円

※3 担保に供している資産

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
投資有価証券	10,033千円	10,082千円

上記の資産は、宅地建物取引業法による営業保証金であります。

(連結損益計算書関係)

※1 一般管理費に含まれる主要な費用は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
人件費	942,167千円	1,082,733千円
賞与引当金繰入額	17,446千円	16,276千円
役員賞与引当金繰入額	14,000千円	28,760千円
退職給付費用	22,910千円	44,365千円
貸倒引当金繰入額	6,540千円	14,117千円
地代家賃	129,485千円	130,856千円
のれんの償却額	36,927千円	73,854千円
減価償却費	18,305千円	19,868千円

※2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
建物及び構築物	－千円	2,752千円

※3 当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額 (千円)
埼玉県上尾市	事業用資産	建物及び構築物	14,988
		その他	319
東京都千代田区	事業用資産	その他	219
合計			15,528

資産のグルーピングは、内部管理上採用している事業区分を基礎として行っております。上記の事業用資産については、収益性の低下により回収可能性が認められなくなったものであり、その帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失 (15,528千円) として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	3,585千円	△9,659千円
組替調整額	－千円	－千円
税効果調整前	3,585千円	△9,659千円
税効果額	△1,097千円	1,746千円
その他有価証券評価差額金	2,488千円	△7,912千円
その他の包括利益合計	2,488千円	△7,912千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	26,620,000	—	23,958,000	2,662,000

(変動事由の概要)

2017年4月27日開催の第103回定時株主総会の決議により、2017年8月1日付で普通株式10株を1株に株式併合いたしました。これにより、発行済株式総数は23,958,000株減少し、2,662,000株となっております。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	888,506	7,564	805,613	90,457

(変動事由の概要)

増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

株式併合による減少	805,613株
単元未満株式の買取りによる増加	7,339株
株式併合に伴う端数株式の買取りによる増加	225株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年4月27日 定時株主総会	普通株式	238,016	9.25	2017年1月31日	2017年4月28日
2017年9月7日 取締役会	普通株式	96,468	3.75	2017年7月31日	2017年10月12日

(注) 2017年4月27日定時株主総会による1株当たり配当額については、特別配当5円50銭が含まれております。
また、1株当たり配当額については、2017年8月1日を効力発生日とする株式併合前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年4月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	366,444	142.50	2018年1月31日	2018年4月27日

(注) 1株当たり配当額については、特別配当105円が含まれております。

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,662,000	—	—	2,662,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	90,457	857	—	91,314

(変動事由の概要)

増減数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 857株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年4月26日 定時株主総会	普通株式	366,444	142.50	2018年1月31日	2018年4月27日
2018年9月6日 取締役会	普通株式	128,556	50.00	2018年7月31日	2018年10月15日

(注) 2018年4月26日定時株主総会による1株当たり配当額については、特別配当105円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年4月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	359,896	140.00	2019年1月31日	2019年4月26日

(注) 1株当たり配当額については、特別配当90円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
現金及び預金勘定	6,895,319千円	7,419,797千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△17,046千円	△17,047千円
現金及び現金同等物	6,878,272千円	7,402,749千円

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

(株)アイ・エス・エスグループ本社の全株式を取得したことにより、同社及びその子会社である(株)アイ・エス・エス及び(株)アイ・エス・エス・アールズを新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに(株)アイ・エス・エスグループ本社株式の取得価額と(株)アイ・エス・エスグループ本社取得のための支出(純増)との関係は次のとおりです。

流動資産	515,254千円
固定資産	357,878千円
のれん	738,543千円
流動負債	△128,694千円
固定負債	△357,981千円
株式の取得価額	1,125,000千円
現金及び現金同等物	△311,546千円
差引：取得のための支出	813,453千円

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主としてレジヤ事業におけるセキュリティシステム(備品)及び駐車場機器(備品)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産による運用に限定しております。短期的な運転資金は、銀行借入により調達する方針であります。デリバティブ取引は、余剰資金の運用目的のために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の債権管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況等を定期的に把握しております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況を把握しております。

短期貸付金は、親会社である東宝株式会社に対するものであります。

差入保証金は、主に賃貸借契約に係るものであり、差し入れ先の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、差し入れ先の信用状況を定期的に把握することを通じて、リスクの軽減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払法人税等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

営業債務は、流動性リスクに晒されておりますが、月次単位で資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度(2018年1月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	6,895,319	6,895,319	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金 (※)	5,301,040 △42,854		
	5,258,186	5,258,186	—
(3) 短期貸付金	1,200,000	1,200,000	—
(4) 投資有価証券	46,784	46,784	—
(5) 差入保証金	852,427	852,084	△343
資産計	14,252,718	14,252,374	△343
(1) 支払手形及び買掛金	1,720,912	1,720,912	—
(2) 未払法人税等	760,377	760,377	—
負債計	2,481,290	2,481,290	—

(※) 受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

時価については、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(5) 差入保証金

差入保証金の時価については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

当連結会計年度(2019年1月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	7,419,797	7,419,797	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金 (※)	5,195,817 △52,029		
	5,143,787	5,143,787	—
(3) 短期貸付金	1,200,000	1,200,000	—
(4) 投資有価証券	37,155	37,155	—
(5) 差入保証金	850,740	851,791	1,051
資産計	14,651,480	14,652,531	1,051
(1) 支払手形及び買掛金	1,774,315	1,774,315	—
(2) 未払法人税等	554,699	554,699	—
負債計	2,329,015	2,329,015	—

(※) 受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

時価については、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(5) 差入保証金

差入保証金の時価については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	2018年1月31日	2019年1月31日
非上場株式 (千円)	83,991	262,455

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、前連結会計年度の「資産 (4) 投資有価証券」及び当連結会計年度の「資産 (4) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び有価証券のうち満期のあるものの連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2018年1月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	6,895,319	—	—	—
受取手形及び売掛金	5,301,040	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他の有価証券のうち満期があるもの(国債)	—	—	10,000	—
その他の有価証券のうち満期があるもの(その他)	—	—	—	—
合計	12,196,360	—	10,000	—

当連結会計年度(2019年1月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,419,797	—	—	—
受取手形及び売掛金	5,195,817	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他の有価証券のうち満期があるもの(国債)	—	—	10,000	—
その他の有価証券のうち満期があるもの(その他)	—	—	—	—
合計	12,615,614	—	10,000	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度 (2018年1月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	36,751	21,283	15,468
債券			
国債・地方債等	10,033	9,788	244
社債	—	—	—
その他	—	—	—
小計	46,784	31,072	15,712
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	—	—	—
債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	46,784	31,072	15,712

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額35,991千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（2019年1月31日）

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	27,073	21,283	5,789
債券			
国債・地方債等	10,082	9,818	263
社債	—	—	—
その他	—	—	—
小計	37,155	31,102	6,053
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	—	—	—
債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	37,155	31,102	6,053

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 220,455千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	54,000	47,863	—
合計	54,000	47,863	—

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。なお、確定給付企業年金制度については提出会社を含め6社が設けており、退職一時金制度は5社（うち1社は中小企業退職金共済制度を併用）が設けております。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	180,895	239,546
連結子会社の取得に伴う増加額	35,505	—
退職給付費用	67,072	110,993
退職給付の支払額	△11,881	△22,244
制度への拠出額	△32,047	△56,948
退職給付に係る負債の期末残高	239,546	271,346

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
積立型制度の退職給付債務	615,654	678,154
年金資産	△466,232	△500,891
	149,422	177,262
非積立型制度の退職給付債務	90,124	94,083
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	239,546	271,346
退職給付に係る負債	239,546	271,346
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	239,546	271,346

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度67,072千円 当連結会計年度 110,993千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動の部)

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	26,681千円	21,582千円
賞与引当金	31,916千円	32,212千円
その他	47,588千円	55,930千円
評価性引当額	△13,248千円	△16,097千円
繰延税金資産合計	92,937千円	93,627千円
繰延税金負債	—千円	△26千円
繰延税金資産の純額	92,937千円	93,600千円

(固定の部)

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	78,725千円	88,589千円
役員退職未払金	103,003千円	95,793千円
貸倒引当金	3,440千円	77,840千円
会員権評価損	36,607千円	36,607千円
固定資産未実現利益	48,406千円	48,406千円
減損損失	308,273千円	308,273千円
繰越欠損金	3,585千円	—千円
その他	113,676千円	115,968千円
評価性引当額	△443,381千円	△510,846千円
繰延税金資産合計	252,337千円	260,634千円
繰延税金負債と相殺	△198,254千円	△203,167千円
繰延税金資産の純額	54,083千円	57,466千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	123,163千円	122,988千円
土地簿価連結修正額	37,287千円	37,287千円
その他	74,620千円	71,047千円
繰延税金負債合計	235,071千円	231,323千円
繰延税金資産と相殺	△198,254千円	△203,167千円
繰延税金負債の純額	36,817千円	28,155千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年1月31日)	当連結会計年度 (2019年1月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入され ない項目	1.0%	1.6%
住民税均等割等	0.9%	1.0%
のれんの償却額	0.4%	0.8%
評価性引当額	0.0%	2.3%
その他	0.1%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	33.3%	36.7%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

子会社株式の追加取得

(1) 取引の概要

- ① 結合当事企業の名称及びその事業の内容
結合当事企業の名称：株式会社東京ハイウェイ(当社の連結子会社)
事業の内容：道路の維持管理業務
- ② 企業結合日
2018年10月31日(みなし取得日)
- ③ 企業結合の法的形式
非支配株主からの株式取得
- ④ 結合後企業の名称
変更ありません。
- ⑤ その他取引の概要に関する事項
追加取得した株式の議決権比率は15%であります。スバル興業グループの企業価値を一層向上させるため、非支配株主が保有する株式を取得し完全子会社といたしました。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

(3) 子会社株式の追加取得に関する事項

取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	203,046千円
取得原価		203,046千円

(4) 非支配株主との取引にかかる当社の持分変動に関する事項

- ① 資本剰余金の主な変動要因
子会社株式の追加取得
- ② 非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額
216,782千円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの。

1 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び当社グループ所有不動産の建設リサイクル費用であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

物件ごとに使用見込期間を見積り、対応する国債の利回りで割り引いて、資産除去債務の金額を計算しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
期首残高	250,773千円	250,972千円
連結子会社の取得に伴う増加額	7,263千円	—千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—千円	24,862千円
時の経過による調整額	1,866千円	1,899千円
資産除去債務の履行による減少額	△8,932千円	△15,780千円
期末残高	250,972千円	261,954千円

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都とその他の地域において、賃貸住宅、賃貸オフィスビル（土地を含む。）や賃貸商業施設等を有しております。

これら賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
連結貸借対照表計上額 (千円)	期首残高	3,831,850	3,828,202
	期中増減額	△3,648	185,947
	期末残高	3,828,202	4,014,149
期末時価 (千円)		6,627,202	7,067,750

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は、吉祥寺スバルビル給排水設備改修工事(86,163千円)であり、主な減少額は、減価償却費(80,441千円)及び除却(13,535千円)であります。当連結会計年度の主な増加額は、千葉県松戸市所在事業用地購入(190,509千円)、吉祥寺スバルビル非常用発電機更新工事等(50,551千円)であり、主な減少額は、減価償却費(79,980千円)であります。
- 3 期末時価のうち、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
賃貸等不動産	賃貸収益 (千円)	593,681	601,376
	賃貸費用 (千円)	220,606	237,234
	差額 (千円)	373,074	364,141
	その他損益 (千円)	1,218	—

- (注) 賃貸収益及び賃貸費用は、賃貸料収入とこれに対応する費用(諸税公課、減価償却費等)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、道路関連事業、レジャー事業、不動産事業を営んでおり、これを当社グループの報告セグメントとしております。

「道路関連事業」は、道路の維持清掃・維持補修工事、高速道路施設の受託運營業務及び太陽光発電事業を行っております。

「レジャー事業」は、映画興行、飲食、物販などの顧客サービス事業及びマリーナの管理運営を行っております。

「不動産事業」は、不動産賃貸業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載のとおりであります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

	報告セグメント				調整額 (千円) (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (千円) (注) 2
	道路関連事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	不動産事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	20,106,797	2,612,972	619,676	23,339,446	—	23,339,446
セグメント間の内部売上高 又は振替高	150	744,021	53,914	798,086	△798,086	—
計	20,106,947	3,356,993	673,591	24,137,533	△798,086	23,339,446
セグメント利益	3,211,714	189,355	362,308	3,763,378	△611,413	3,151,964
セグメント資産	14,837,404	1,716,888	4,293,054	20,847,348	4,907,629	25,754,977
その他の項目						
減価償却費	337,852	78,981	84,610	501,444	6,641	508,086
のれんの償却額	36,927	—	—	36,927	—	36,927
のれんの未償却残高	701,616	—	—	701,616	—	701,616
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,176,037	43,228	93,872	1,313,138	11,043	1,324,181

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△611,413千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額4,907,629千円は、連結財務諸表提出会社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び総務・経理等管理部門に係る資産等であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

	報告セグメント				調整額 (千円) (注)1	連結 財務諸表 計上額 (千円) (注)2
	道路関連事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	不動産事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	21,779,878	2,755,206	629,272	25,164,357	—	25,164,357
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	718,354	55,789	774,143	△774,143	—
計	21,779,878	3,473,560	685,062	25,938,501	△774,143	25,164,357
セグメント利益	3,275,752	141,689	347,161	3,764,603	△701,705	3,062,897
セグメント資産	15,475,244	1,624,066	4,552,834	21,652,146	5,178,477	26,830,623
その他の項目						
減価償却費	374,276	80,285	84,235	538,797	9,226	548,024
減損損失	—	15,528	—	15,528	—	15,528
のれんの償却額	73,854	—	—	73,854	—	73,854
のれんの未償却残高	627,761	—	—	627,761	—	627,761
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	471,991	141,354	243,894	857,241	13,736	870,977

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△701,705千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額5,178,477千円は、連結財務諸表提出会社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び総務・経理等管理部門に係る資産等であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高 (千円)	関連するセグメント名
阪神高速技術株式会社	2,580,566	道路関連事業
中日本ハイウェイ・メンテナンス 東名株式会社	2,462,217	道路関連事業

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)	関連するセグメント名
中日本ハイウェイ・メンテナンス 東名株式会社	2,917,027	道路関連事業
阪神高速技術株式会社	2,509,613	道路関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等
前連結会計年度（自 2017年2月1日 至 2018年1月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	東宝㈱	東京都千代田区	10,355,847	映画の製作・配給・興行、演劇の製作・興行、不動産の賃貸他	(被所有) 直接 53.55 間接 1.14	資金の貸付 役員の兼任	— 利息の受取	— 333	短期貸付金 —	1,000,000 —

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

当連結会計年度（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	東宝㈱	東京都千代田区	10,355,847	映画の製作・配給・興行、演劇の製作・興行、不動産の賃貸他	(被所有) 直接 53.55 間接 1.14	資金の貸付 役員の兼任	— 利息の受取	— 609	短期貸付金 —	1,000,000 —

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等
前連結会計年度（自 2017年2月1日 至 2018年1月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	東宝㈱	東京都千代田区	10,355,847	映画の製作・配給・興行、演劇の製作・興行、不動産の賃貸他	(被所有) 直接 53.55 間接 1.14	資金の貸付	— 利息の受取	— 66	短期貸付金 —	200,000 —

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

当連結会計年度（自 2018年2月1日 至 2019年1月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	東宝㈱	東京都千代田区	10,355,847	映画の製作・配給・興行、演劇の製作・興行、不動産の賃貸他	(被所有) 直接 53.55 間接 1.14	資金の貸付	— 利息の受取	— 121	短期貸付金 —	200,000 —

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

東宝株式会社（東京証券取引所、福岡証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
1株当たり純資産額	8,018.38円	8,615.72円
1株当たり当期純利益	814.18円	707.92円

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。
 2 2017年8月1日付で、普通株式10株を1株に株式併合しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
 3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当連結会計年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,094,475	1,820,150
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	2,094,475	1,820,150
普通株式の期中平均株式数(株)	2,572,488	2,571,114

(重要な後発事象)

固定資産の譲渡

当社は、下記のとおり固定資産を譲渡いたしました。

1. 固定資産譲渡の理由

経営資源の効率的活用及び財務体質の強化を図るため。

2. 資産の内容及び所在地

名称：銀座スバルビル（東京都中央区）

種類：土地、建物

3. 譲渡日

2019年3月5日

4. 譲渡先

譲渡先は国内法人ですが、譲渡先の要望により名称等の公表は控えさせていただきます。
 なお、譲渡先と当社との間には、記載すべき資本関係、人的関係及び取引関係はありません。
 また、関連当事者にも該当しません。

5. 当該事象の損益に与える影響

当該固定資産の譲渡により、翌連結会計年度において土地売却益609,751千円を特別利益として、また、建物売却損18,073千円を特別損失として計上する予定であります。
 なお、翌連結会計年度の不動産事業セグメント売上高及びセグメント利益に与える影響は軽微であります。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	3,519	5,652	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,817	13,764	—	2023年11月4日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	8,337	19,417	—	—

- (注) 1 リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。
- 2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
リース債務(千円)	4,921	3,387	3,048	2,407

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
建設リサイクル費用	26,955	586	—	27,541
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務	224,017	26,175	15,780	234,412
合計	250,972	26,762	15,780	261,954

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,309,339	12,823,250	18,816,800	25,164,357
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	1,364,318	1,877,053	2,438,420	2,924,328
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	891,809	1,219,351	1,574,275	1,820,150
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	346.81	474.21	612.27	707.92

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	346.81	127.39	138.05	95.64

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,263,905	4,586,067
受取手形	51,316	26,954
売掛金	※2 3,462,539	※2 3,373,614
商品	34,241	33,369
原材料及び貯蔵品	38,164	55,133
未成工事支出金	559,974	849,044
前払費用	※2 71,233	※2 74,240
繰延税金資産	53,200	48,958
短期貸付金	※2 1,060,000	※2 1,060,000
その他	※2 23,375	※2 27,862
貸倒引当金	△38,625	△46,166
流動資産合計	9,579,327	10,089,078
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,134,372	2,107,292
構築物	64,753	49,996
機械及び装置	1,118,007	1,057,360
船舶	11,756	7,058
車両運搬具	344,517	346,110
工具、器具及び備品	70,040	84,579
土地	4,107,198	4,297,707
リース資産	6,860	3,968
建設仮勘定	1,154	—
有形固定資産合計	7,858,660	7,954,073
無形固定資産		
借地権	194,037	194,037
ソフトウェア	9,423	29,346
電話加入権	10,373	10,300
無形固定資産合計	213,833	233,683
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 66,784	※1 247,755
関係会社株式	1,553,424	1,756,470
長期貸付金	※2 127,249	※2 67,149
長期前払費用	8,760	8,162
繰延税金資産	—	3,751
差入保証金	※2 694,887	※2 677,800
その他	373,890	380,210
貸倒引当金	△11,241	△15,973
投資その他の資産合計	2,813,755	3,125,327
固定資産合計	10,886,249	11,313,084
資産合計	20,465,576	21,402,163

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	※2 1,226,289	※2 1,294,873
リース債務	3,254	2,338
未払金	338,256	245,798
未払費用	※2 69,975	※2 77,935
未払法人税等	577,120	337,303
前受金	※2 246,766	※2 374,759
預り金	18,760	23,782
賞与引当金	45,000	47,000
預り保証金	—	22,163
流動負債合計	2,525,422	2,425,955
固定負債		
リース債務	4,285	1,946
長期末払金	29,227	29,227
長期預り保証金	※2 237,019	※2 238,272
退職給付引当金	73,441	100,519
資産除去債務	243,708	254,690
繰延税金負債	2,386	—
固定負債合計	590,069	624,656
負債合計	3,115,491	3,050,612
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,331,000	1,331,000
資本剰余金		
資本準備金	1,057,028	1,057,028
資本剰余金合計	1,057,028	1,057,028
利益剰余金		
利益準備金	332,750	332,750
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	279,331	278,933
別途積立金	4,415,500	4,415,500
繰越利益剰余金	10,259,430	11,274,507
利益剰余金合計	15,287,011	16,301,691
自己株式	△338,217	△343,519
株主資本合計	17,336,822	18,346,200
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,262	5,350
評価・換算差額等合計	13,262	5,350
純資産合計	17,350,085	18,351,550
負債純資産合計	20,465,576	21,402,163

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 2月 1日 至 2018年 1月 31日)	当事業年度 (自 2018年 2月 1日 至 2019年 1月 31日)
売上高	※2 15,907,314	※2 16,173,356
営業費用	※2 12,444,844	※2 12,866,481
売上総利益	3,462,469	3,306,875
一般管理費	※1, ※2 1,069,955	※1, ※2 1,133,426
営業利益	2,392,513	2,173,448
営業外収益		
受取利息及び配当金	※2 30,100	※2 33,470
その他	35,384	23,917
営業外収益合計	65,485	57,387
営業外費用		
その他	16,469	2,247
営業外費用合計	16,469	2,247
経常利益	2,441,529	2,228,588
特別利益		
固定資産売却益	—	※3 2,752
保険解約返戻金	622	19,190
特別利益合計	622	21,943
特別損失		
減損損失	—	15,528
固定資産処分損	—	15,473
特別損失合計	—	31,001
税引前当期純利益	2,442,151	2,219,531
法人税、住民税及び事業税	778,000	710,000
法人税等調整額	△10,567	△149
法人税等合計	767,432	709,850
当期純利益	1,674,719	1,509,681

【営業費用明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)		構成比 (%)	当事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)		構成比 (%)
		金額(千円)			金額(千円)		
1 道路関連事業							
材料費		1,208,514			1,020,485		
外注費		5,084,452			5,327,805		
委託費		387,774			350,036		
人件費		1,139,281			1,241,659		
経費		1,258,968	9,078,991	73.0	1,376,768	9,316,753	72.4
2 レジャー事業							
材料費		1,412,543			1,391,652		
委託費		646,318			728,542		
人件費		209,173			225,972		
経費		843,559	3,111,594	25.0	930,178	3,276,345	25.5
3 不動産事業							
委託費		34,131			34,334		
経費		220,126	254,257	2.0	239,047	273,382	2.1
営業費用合計			12,444,844	100.0		12,866,481	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)

(単位：千円)

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	その他利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,331,000	1,057,028	1,057,028	332,750	279,728	4,415,500	8,918,797	13,946,776
当期変動額								
剰余金の配当							△334,484	△334,484
固定資産圧縮積立金の取崩					△397		397	—
当期純利益							1,674,719	1,674,719
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	—	△397	—	1,340,632	1,340,234
当期末残高	1,331,000	1,057,028	1,057,028	332,750	279,331	4,415,500	10,259,430	15,287,011

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△328,187	16,006,618	10,774	10,774	16,017,392
当期変動額					
剰余金の配当		△334,484			△334,484
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
当期純利益		1,674,719			1,674,719
自己株式の取得	△10,030	△10,030			△10,030
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			2,488	2,488	2,488
当期変動額合計	△10,030	1,330,204	2,488	2,488	1,332,693
当期末残高	△338,217	17,336,822	13,262	13,262	17,350,085

当事業年度(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,331,000	1,057,028	1,057,028	332,750	279,331	4,415,500	10,259,430	15,287,011
当期変動額								
剰余金の配当							△495,001	△495,001
固定資産圧縮積立金の取崩					△397		397	—
当期純利益							1,509,681	1,509,681
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	—	△397	—	1,015,077	1,014,680
当期末残高	1,331,000	1,057,028	1,057,028	332,750	278,933	4,415,500	11,274,507	16,301,691

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△338,217	17,336,822	13,262	13,262	17,350,085
当期変動額					
剰余金の配当		△495,001			△495,001
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
当期純利益		1,509,681			1,509,681
自己株式の取得	△5,302	△5,302			△5,302
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△7,912	△7,912	△7,912
当期変動額合計	△5,302	1,009,377	△7,912	△7,912	1,001,465
当期末残高	△343,519	18,346,200	5,350	5,350	18,351,550

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

商品、原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

未成工事支出金

個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

道路関連事業関係資産、賃貸ビル資産、マリーナ事業関係資産、

その他の建物及び車両並びに2016年4月1日以後に取得した

定額法

建物附属設備及び構築物

その他の資産

定率法

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

4 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を適用し、その他の工事については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当事業年度末における進捗率の見積りは、原価比例法によっております。

5 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1 このうち担保に供しているのは次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
投資有価証券	10,033千円	10,082千円

上記資産は、宅地建物取引業法による営業保証金であります。

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
短期金銭債権	1,220,295千円	1,283,392千円
長期金銭債権	125,600千円	65,000千円
短期金銭債務	117,696千円	92,369千円
長期金銭債務	1,090千円	1,090千円

(損益計算書関係)

※1 一般管理費の主要な費用及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
役員報酬	162,408千円	208,738千円
給料・手当・賞与	361,380千円	339,733千円
賞与引当金繰入額	12,510千円	12,032千円
退職給付費用	20,158千円	41,816千円
福利費	95,497千円	108,752千円
貸倒引当金繰入額	6,795千円	12,373千円
地代家賃	121,634千円	118,808千円
減価償却費	13,048千円	14,101千円

※2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
営業取引による取引高		
売上高	1,250,753千円	1,338,092千円
仕入高	930,959千円	839,159千円
営業取引以外の取引による取引高	28,519千円	28,454千円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年2月1日 至 2018年1月31日)	当事業年度 (自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)
建物	一千円	2,752千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

区分	2018年1月31日	2019年1月31日
子会社株式(千円)	1,553,424	1,756,470
関連会社株式(千円)	—	—
計	1,553,424	1,756,470

(注) 上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動の部)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	10,902千円	2,656千円
賞与引当金	13,905千円	14,382千円
その他	40,212千円	46,046千円
評価性引当額	△11,819千円	△14,127千円
繰延税金資産計	53,200千円	48,958千円
繰延税金負債	—千円	—千円
繰延税金資産の純額	53,200千円	48,958千円

(固定の部)

	前事業年度 (2018年1月31日)	当事業年度 (2019年1月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	23,333千円	31,619千円
役員退職未払金	8,082千円	8,082千円
貸倒引当金	3,440千円	4,887千円
会員権評価損	22,159千円	22,159千円
減価償却超過額	14,179千円	12,761千円
減損損失	307,598千円	307,598千円
資産除去債務	74,574千円	77,935千円
関係会社株式	—千円	125,502千円
その他	27,071千円	26,935千円
評価性引当額	△331,988千円	△462,299千円
繰延税金資産計	148,452千円	155,184千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	123,163千円	122,988千円
資産除去債務に対応する 除去費用	25,255千円	27,770千円
その他有価証券評価差額金	2,419千円	673千円
繰延税金負債計	150,838千円	151,432千円
繰延税金資産 又は繰延税金負債(△)の純額	△2,386千円	3,751千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税率の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

連結財務諸表の「注記事項（企業結合等関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

固定資産の譲渡

当社は、下記のとおり固定資産を譲渡いたしました。

1. 固定資産譲渡の理由

経営資源の効率的活用及び財務体質の強化を図るため。

2. 資産の内容及び所在地

名称：銀座スバルビル（東京都中央区）

種類：土地、建物

3. 譲渡日

2019年3月5日

4. 譲渡先

譲渡先は国内法人ですが、譲渡先の要望により名称等の公表は控えさせていただきます。

なお、譲渡先と当社との間には、記載すべき資本関係、人的関係及び取引関係はありません。

また、関連当事者にも該当しません。

5. 当該事象の損益に与える影響

当該固定資産の譲渡により、翌事業年度において土地売却益609,751千円を特別利益として、また、建物売却損18,073千円を特別損失として計上する予定であります。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	期首 帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	2,134,372	126,044	18,469 (14,988)	134,655	2,107,292	1,940,189
	構築物	64,753	9,409	15,473	8,692	49,996	114,839
	機械及び装置	1,118,007	34,976	0	95,623	1,057,360	462,500
	船舶	11,756	—	0	4,698	7,058	114,445
	車両運搬具	344,517	141,002	0	139,409	346,110	1,967,649
	工具、器具及び備品	70,040	48,936	2,313 (539)	32,084	84,579	223,537
	土地	4,107,198	190,509	—	—	4,297,707	—
	リース資産	6,860	—	244	2,647	3,968	13,674
	建設仮勘定	1,154	275,394	276,549	—	—	—
	計	7,858,660	826,273	313,049 (15,528)	417,811	7,954,073	4,836,836
無形固定資産	借地権	194,037	—	—	—	194,037	—
	ソフトウェア	9,423	23,855	—	3,931	29,346	19,233
	電話加入権	10,373	—	72	—	10,300	—
	計	213,833	23,855	72	3,931	233,683	19,233

(注) 1 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建物	吉祥寺スバルビル非常用発電機更新工事他	50,551千円
建物	エトナマーレ開店	47,918千円
車両運搬具	作業用車両他代替	141,002千円
土地	千葉県松戸市所在事業用地	190,509千円

2 当期減少額のうち () 内は内書きで減損損失であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	49,867	16,278	4,004	62,140
賞与引当金	45,000	47,000	45,000	47,000

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月1日から1月31日まで																																
定時株主総会	4月中																																
基準日	1月31日																																
剰余金の配当の基準日	7月31日および1月31日																																
1単元の株式数	100株																																
単元未満株式の買取り																																	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部																																
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社																																
取次所	—																																
買取手数料	無料																																
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のウェブサイトに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 https://subaru-kougyou.jp/																																
株主に対する特典	<p>(提出日現在の株主優待制度)</p> <p>優待基準日：2019年1月末日現在の株主。 優待内容：株主優待カード発行による、有楽町スバル座上映映画鑑賞。 株主優待カードはライトカード方式であり、初回のみ2019年4月下旬に発送。 利用期間：2019年5月から2019年10月末日まで。</p> <table border="1"> <tr> <td>100株以上</td> <td>6ヵ月6回</td> <td>300株以上</td> <td>6ヵ月18回</td> </tr> <tr> <td>200株以上</td> <td>6ヵ月12回</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(2019年7月以降の株主優待制度)</p> <p>優待基準日：毎年1月末日現在の株主（2019年7月に限り、7月末日現在の株主）。 優待内容：TOHOシネマズギフトカードの贈呈。 継続保有期間3年以上の株主には、追加特典あり。 ※継続保有期間3年とは、基準日において同一の株主番号で連続して4回以上株主名簿に記載または記録されていること。</p> <p>2019年7月末日（2019年のみ）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保有株式数</th> <th>継続保有期間3年未満</th> <th>継続保有期間3年以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株</td> <td>1,000円分</td> <td>1,500円分</td> </tr> <tr> <td>200株</td> <td>1,500円分</td> <td>2,000円分</td> </tr> <tr> <td>300株以上</td> <td>2,000円分</td> <td>2,500円分</td> </tr> </tbody> </table> <p>優待品の発送は、2019年10月下旬頃。</p> <p>2020年1月以降 毎年1月末日（年1回）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保有株式数</th> <th>継続保有期間3年未満</th> <th>継続保有期間3年以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株</td> <td>2,000円分</td> <td>3,000円分</td> </tr> <tr> <td>200株</td> <td>3,000円分</td> <td>4,000円分</td> </tr> <tr> <td>300株以上</td> <td>4,000円分</td> <td>5,000円分</td> </tr> </tbody> </table> <p>優待品の発送は、基準年度の4月下旬頃。</p>	100株以上	6ヵ月6回	300株以上	6ヵ月18回	200株以上	6ヵ月12回		—	保有株式数	継続保有期間3年未満	継続保有期間3年以上	100株	1,000円分	1,500円分	200株	1,500円分	2,000円分	300株以上	2,000円分	2,500円分	保有株式数	継続保有期間3年未満	継続保有期間3年以上	100株	2,000円分	3,000円分	200株	3,000円分	4,000円分	300株以上	4,000円分	5,000円分
100株以上	6ヵ月6回	300株以上	6ヵ月18回																														
200株以上	6ヵ月12回		—																														
保有株式数	継続保有期間3年未満	継続保有期間3年以上																															
100株	1,000円分	1,500円分																															
200株	1,500円分	2,000円分																															
300株以上	2,000円分	2,500円分																															
保有株式数	継続保有期間3年未満	継続保有期間3年以上																															
100株	2,000円分	3,000円分																															
200株	3,000円分	4,000円分																															
300株以上	4,000円分	5,000円分																															

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第104期(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日) 2018年4月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第104期(自 2017年2月1日 至 2018年1月31日) 2018年4月26日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第105期第1四半期(自 2018年2月1日 至 2018年4月30日) 2018年6月14日関東財務局長に提出

第105期第2四半期(自 2018年5月1日 至 2018年7月31日) 2018年9月14日関東財務局長に提出

第105期第3四半期(自 2018年8月1日 至 2018年10月31日) 2018年12月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年5月7日

スバル興業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川	島	繁	雄	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	佐	瀬		剛	Ⓜ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスバル興業株式会社の2018年2月1日から2019年1月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スバル興業株式会社及び連結子会社の2019年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜内部統制監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、スバル興業株式会社の2019年1月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、スバル興業株式会社が2019年1月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※ 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年5月7日

スバル興業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川	島	繁	雄	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	佐	瀬		剛	Ⓔ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているスバル興業株式会社の2018年2月1日から2019年1月31日までの第105期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スバル興業株式会社の2019年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年5月7日

【会社名】 スバル興業株式会社

【英訳名】 Subaru Enterprise Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 永田泉治

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都千代田区有楽町一丁目10番1号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長永田泉治は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用の責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全に防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2019年1月31日を基準日として行われており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点において整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社12社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として、売上高、売掛金、営業費用のうち材料費と外注費、原材料および未成工事支出金に至る業務プロセスを評価の対象とした。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価範囲に追加している。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年5月7日
【会社名】	スバル興業株式会社
【英訳名】	Subaru Enterprise Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 永 田 泉 治
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目10番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長永田泉治は、当社の第105期(自 2018年2月1日 至 2019年1月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

